

FACT BOOK

2025年5月更新

サッポロホールディングス株式会社

資料編

1 サッポログループの概要

- [サッポログループ 会社概要](#)
- [サッポログループ 事業別主要関係会社と主な商品](#)
- [サッポログループ 沿革](#)

2 中期経営計画

- [基本方針](#)
- [事業戦略](#)
- [財務戦略](#)
- [サステナビリティ戦略](#)
- [経営基盤強化](#)

3 グループ中長期成長戦略

4 事業概況

- [酒類事業](#)
- [食品飲料事業](#)
- [不動産事業](#)

データ編

5 財務データ

- [損益計算書/財政状態計算書](#)
- [セグメント情報](#)
- [キャッシュフロー情報/1株あたり情報/各種指標](#)

オンライングラフURL

<https://www.sapporoholdings.jp/ir/financial/graph/>

6 非財務データ

サッポログループの詳しい情報については、当社WEBサイトをご覧ください。

- IRサイト

<https://www.sapporoholdings.jp/ir/>

- IRライブラリー（決算短信・決算説明会資料・有価証券報告書・統合報告書）

<https://www.sapporoholdings.jp/ir/library/>

- サステナビリティサイト

<https://www.sapporoholdings.jp/sustainability/>

- サステナビリティブック

https://www.sapporoholdings.jp/sustainability/sustainability_book/

～資料編～

サッポログループ 会社概要

企業概要

<会社名>

サッポロホールディングス株式会社

<事業概要>

持株会社（グループの経営戦略の策定、管理）

<本社所在地>

〒150-8522 東京都渋谷区恵比寿四丁目20番1号

<設立>

1949（昭和24）年9月1日

<創業>

1876（明治9）年

<代表者>

代表取締役社長
時松 浩



<資本金>

53,887百万円

経営理念

潤いを創造し 豊かさに貢献する

経営の基本方針

サッポログループは、ステークホルダーの信頼を高める誠実な企業活動を実践し、持続的な企業価値の向上を目指します

サッポログループは1876年の北海道開拓使麦酒醸造所設立によるビール製造開始以来、原料にこだわったモノづくりへの真摯な取り組みを続け、お客様にご満足いただける商品・サービスの提供に努めています。

ビール事業をはじめとして、総合酒類、食品・飲料、外食、不動産へとすそ野を広げ、ご提供する商品・サービスを通じたお客様との「対話」をもとに、イノベーションや品質の向上を追求してきました。これが、私たちの大事な「ブランド」資産だと考えています。

これからも変化への対応と新たな挑戦により、国内外でこの「ブランド」をさらに磨き、「個性かがやくブランドカンパニー」としての確かな成長を目指していきます。

また、世界全体で向き合う地球環境や社会における各課題に取り組むサステナビリティ経営の推進は、企業として当然果たすべき役割と認識しています。当社の経営理念「潤いを創造し 豊かさに貢献する」の実現に資する「人々と地域社会のWell-beingへの貢献」を行い、経済価値・社会価値の創出を図っていきます。

サッポログループ 会社概要

証券コード
2501

発行済株式数
78,794,298株（2024年12月31日現在）

格付情報（2024年12月31日現在）
株式会社日本格付研究所（JCR） A-

株主名簿管理人
みずほ信託銀行株式会社 証券代行部

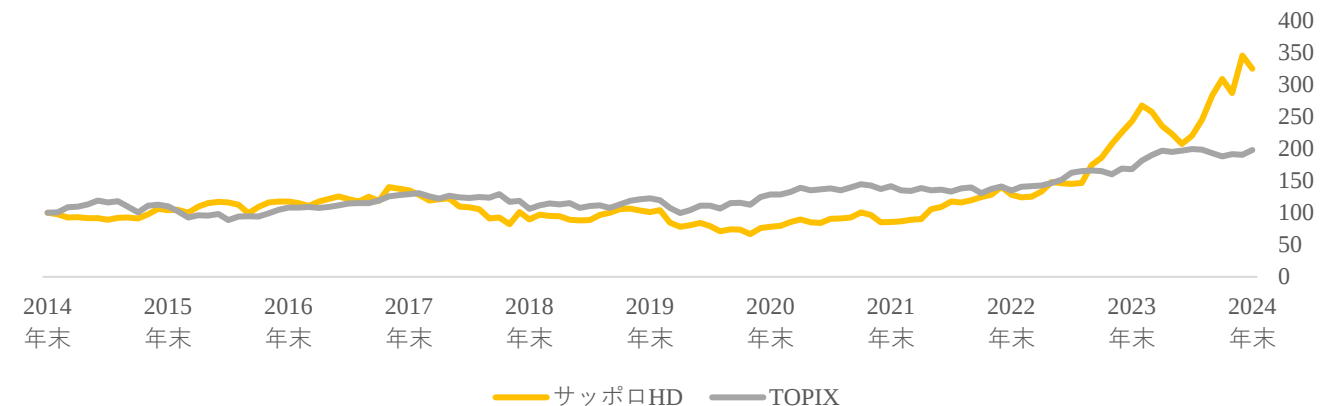
大株主（上位10名及びその状況）

持株比率は自己株式を控除して計算しています。

2024年12月31日現在

株主名	持株数（千株）	持株比率（%）
日本マスタートラスト信託銀行株式会社（信託口）	10,916	13.99
株式会社日本カストディ銀行（信託口）	3,821	4.90
NOMURA PB NOMINEES LIMITED OMNIBUS-MARGIN（CASHPB）	3,620	4.64
株式会社日本カストディ銀行 退職給付信託 みずほ信託銀行口	2,442	3.13
3D OPPORTUNITY MASTER FUND	2,400	3.08
GOLDMAN SACHS INTERNATIONAL	2,291	2.94
日本生命保険相互会社	2,237	2.87
明治安田生命保険相互会社	2,236	2.87
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505018	2,196	2.82
農林中央金庫	1,875	2.40

株価推移（2014年12月末の終値を100とした場合の株価指数）



サッポログループ 会社概要

酒類、食品飲料、不動産の3つの事業を展開

酒類事業

国内および海外において、ビールやRTDなどのアルコール飲料を展開しています。エビスビールをはじめとする、独自の歴史や物語を有する多様なビールブランドと、黒ラベルブランドで培った個性を磨くマーケティングを強みに、未来のビール市場をカイタクする「個性かがやく酒類ブランドカンパニー」を目指します。

食品飲料事業

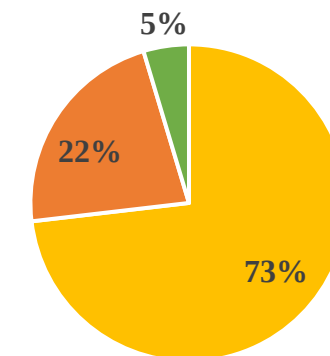
「ポッカレモン」「キレートレモン」をはじめとしたレモン事業を中心に、飲料事業、スープ事業などを展開しています。地域とのつながりも大事にしながら、技術やアイデアを活かし、食を通じてお客様に毎日いきいきと楽しく幸せな時間を過ごしていただけるよう取り組んでいます。

不動産事業

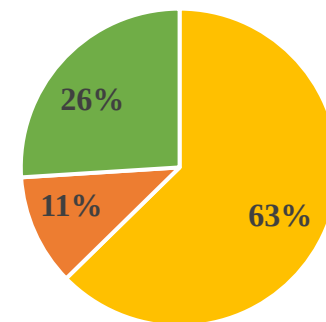
グループとゆかりの深い恵比寿、札幌、銀座を中心に、不動産の管理・運営、開発事業を展開しています。各祖業の地でエリアを代表する施設を運営し、グループのブランドと一体となったまちづくりを通じて「豊かな時間」と「豊かな空間」を創り育むことで、持続可能な地域社会の創造に貢献していきます。

(億円)	2024年12月期				
	連結	酒類	食品飲料	不動産	その他
売上収益	5,308	3,882	1,179	246	1
事業利益	220	188	34	78	-80
事業利益率	4.2%	4.8%	2.9%	31.9%	-
EBITDA	440	304	63	140	-67

<売上収益構成比>



<事業利益構成比>



■ 酒類 ■ 食品飲料 ■ 不動産

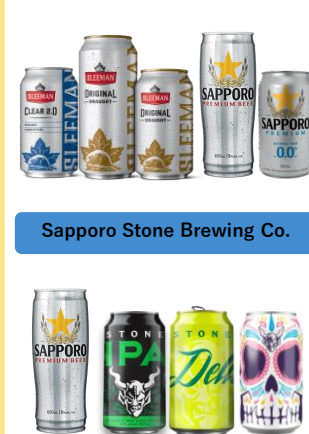
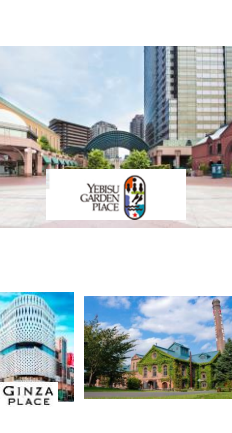
■ 酒類 ■ 食品飲料 ■ 不動産

サッポログループ 事業別主要関係会社と主な商品

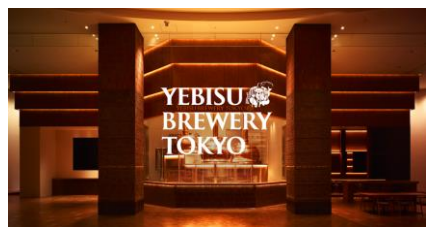
2024年12月末時点

日本 北米 東南アジア

サッポロホールディングス株式会社	酒類	国内酒類	サッポロビール(株)
		海外酒類	カナダ SLEEMAN BREWERIES LTD. アメリカ SAPPORO U.S.A., INC. Sapporo Stone Brewing Co. ベトナム SAPPORO VIETNAM LTD.
		外食	(株)サッポロライオン
	食品飲料	国内食品飲料	ポッカサッポロフード&ビバレッジ(株)
		海外飲料	シンガポール POKKA PTE.LTD. マレーシア POKKA (MALAYSIA) SDN.BHD.
	不動産		サッポロ不動産開発(株)

酒類事業	国内酒類	サッポロビール(株)	海外酒類	SLEEMAN BREWERIES LTD.	(株)サッポロライオン
					
食品飲料事業	国内食品飲料	ポッカサッポロフード&ビバレッジ(株)	海外飲料	POKKA PTE.LTD.	サッポロ不動産開発(株)
					

サッポログループ 沿革



年	事業	主な出来事
1876	酒類	【日本】北海道・札幌にて「開拓使麦酒醸造所」として創業（サッポロビールのルーツ）
1877	酒類	【日本】冷製「札幌ビール」発売
1887	酒類	【日本】東京・銀座にて「日本麦酒醸造会社」創業（エビスビールのルーツ）
1890	酒類	【日本】「恵比寿ビール」発売
1899	酒類	【日本】日本初のビアホール「恵比寿ビール BEER HALL」東京・銀座に誕生
1957	食品飲料	【日本】「ポッカレモン」誕生
1964	酒類	【米国】米国向けにビールの輸出を開始
1977	酒類	【日本】「サッポロびん生」発売（後の「サッポロ生ビール黒ラベル」）
1977	食品飲料	【シンガポール】シンガポール進出
1984	酒類	【米国】サッポロUSA社設立
1993	不動産	【日本】札幌工場跡地に＜サッポロファクトリー＞開業
1994	不動産	【日本】恵比寿工場跡地に＜恵比寿ガーデンプレイス＞開業
2003	その他	純粋持株会社体制へ（サッポロホールディングス株式会社）
2006	酒類	【カナダ】SLEEMAN社子会社化
2011	酒類	【ベトナム】ビール工場完成
2011	食品飲料	【日本】ポッカサッポロフード&ビバレッジ事業開始
2014	食品飲料	【マレーシア】ポッカマレーシア工場竣工
2016	不動産	【日本】GINZA PLACE開業
2019	その他	「気候関連財務情報開示タスクフォース（TCFD）」提言への賛同表明
2019	その他	サッポログループ サステナビリティ方針策定
2020	その他	監査等委員会設置会社に移行
2021	その他	「責任ある飲酒の推進」としてグローバルスローガン「Promote Responsible Drinking」策定
2022	酒類	【米国】Stone社子会社化
2024	酒類	【日本】YEBISU BREWERY TOKYO開業



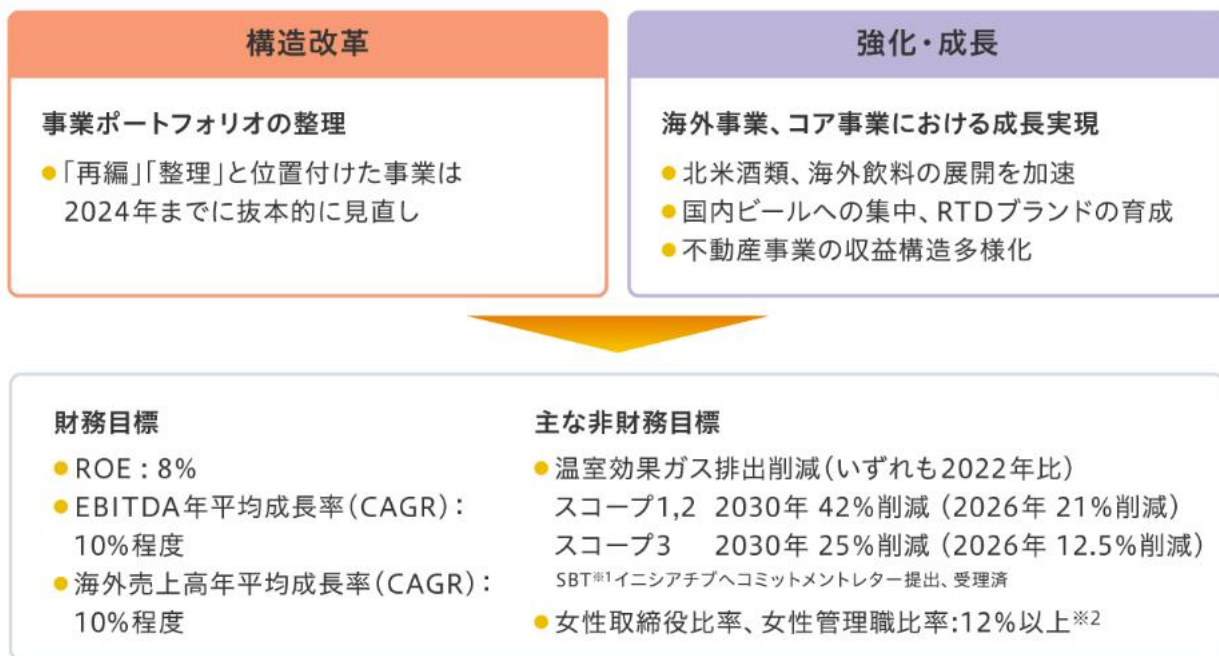
基本方針：Beyond150 ～事業構造を転換し新たな成長へ～

1876年の創業以来、様々なイノベーションを発揮し、お客様に潤いと豊かさをもたらす商品やサービスをお届けしてきた当社は、2026年に創業150周年を迎えます。

150年を越えて独自の存在価値を発揮し続けるために、2023年～2026年までの4か年の新たな経営計画を策定しました。

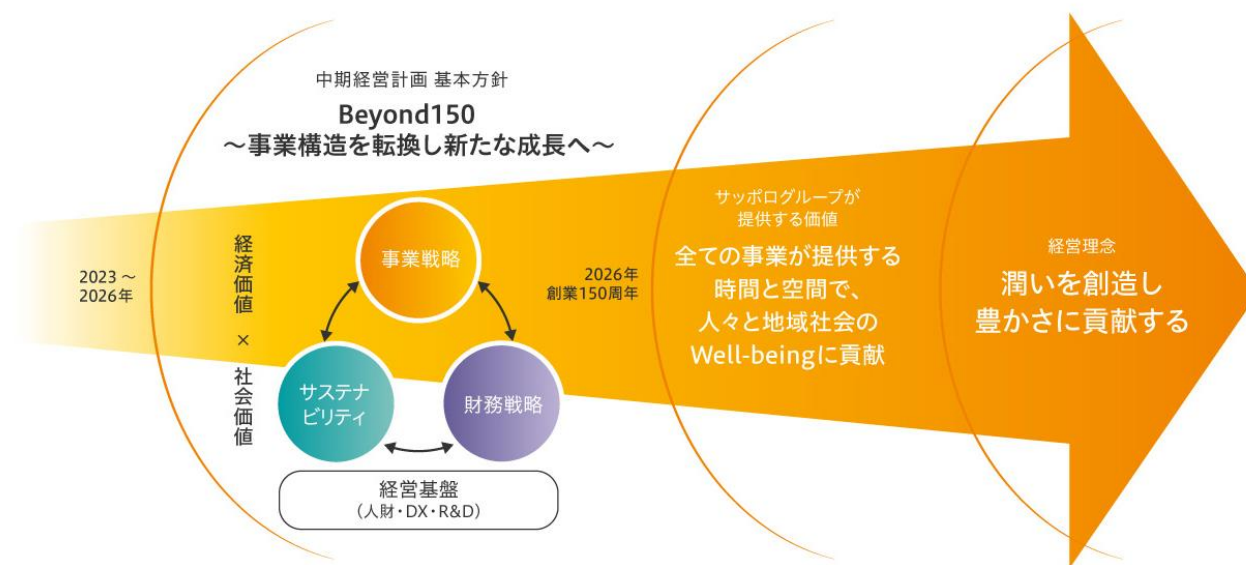
本計画のポイントは、事業ポートフォリオの見直しと、各事業のポジショニングに沿ったグループマネジメントを実現し、資本効率を高め企業価値を向上させていくことです。ステークホルダーの皆さまの期待に確実に応える4年間とします。

当社グループが今後も独自の存在価値を発揮して成長を続けていくために、本計画では「事業戦略」「財務戦略」「サステナビリティ」を3つの戦略の柱に据え、事業構造の転換を完遂し、持続的成長に向けた基盤を構築していきます。



※1 SBT(Science Based Targets)パリ協定が求める水準と整合した、企業が設定する温室効果ガス排出削減目標のこと

※2 22年9月末実績: 女性取締役8.3%、女性管理職5.4%

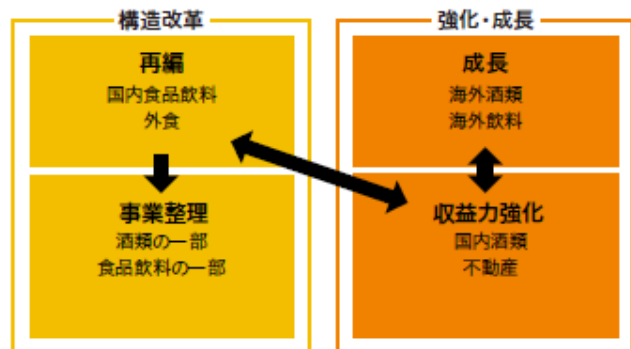


事業戦略

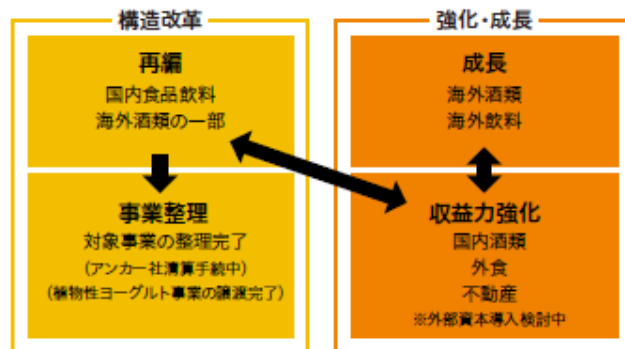
「事業戦略」では、事業ポートフォリオの整理により各事業の課題を明確化し、取り組みを進めています。
構造改革については、米国アンカー社の解散や植物性ヨーグルト事業の譲渡など、当初予定した改革を2024年度までに概ね完了しました。
2025年度以降は、米国Stone社の採算悪化という新たな課題に対し抜本的な構造改革を実施するとともに、国内外各事業のキャッシュ創出力・資本効率のさらなる向上を図り、酒類事業を中核とした成長分野に経営資源を集中していきます。

事業ポートフォリオマネジメントの進捗

中期経営計画の開始時に示したポートフォリオ



2025年に向けた事業ポートフォリオの転換状況



<2024年度までの主な成果と課題>

再編：「外食」の構造改革完了

事業整理：「酒類の一部（アンカー社）」の事業整理、
「食品飲料の一部（植物性ヨーグルト）」の事業整理完了

成長：「海外酒類（米国事業）」の減損と構造改革開始

収益力強化：不動産事業への外部資本導入プロセス開始

各事業、重点アクションに注力し、事業利益率の向上を目指します。

国内酒類 **強化・成長** 事業利益率 3.5% (22年実績) ⇒ 5.7% (26年目標)

酒税一本化を見据え、ビール・RTDを強化

海外酒類 **強化・成長** 事業利益率 ▲0.4% (22年実績) ⇒ 6.2% (26年目標)

成長ドライバーとなる米国において、Stone社とのシナジー早期創出、
SAPPORO PREMIUM BEER (SPB) を中心とした更なる成長を目指す

外食 **構造改革** ▶ **強化・成長** 事業利益率 ▲3.3% (22年実績) ⇒ 5.0% (26年目標)

投資効率の高い店舗の出店と不採算店舗の閉鎖
ブランド発信拠点としての国内酒類事業との連携強化

国内食品飲料 **構造改革** 事業利益率 0.9% (22年実績) ⇒ 3.8% (26年目標)

構造改革の実施による収益基盤の再構築
レモン事業へのリソース集中投下

海外飲料 **強化・成長** 事業利益率 3.6% (22年実績) ⇒ 5.0% (26年目標)

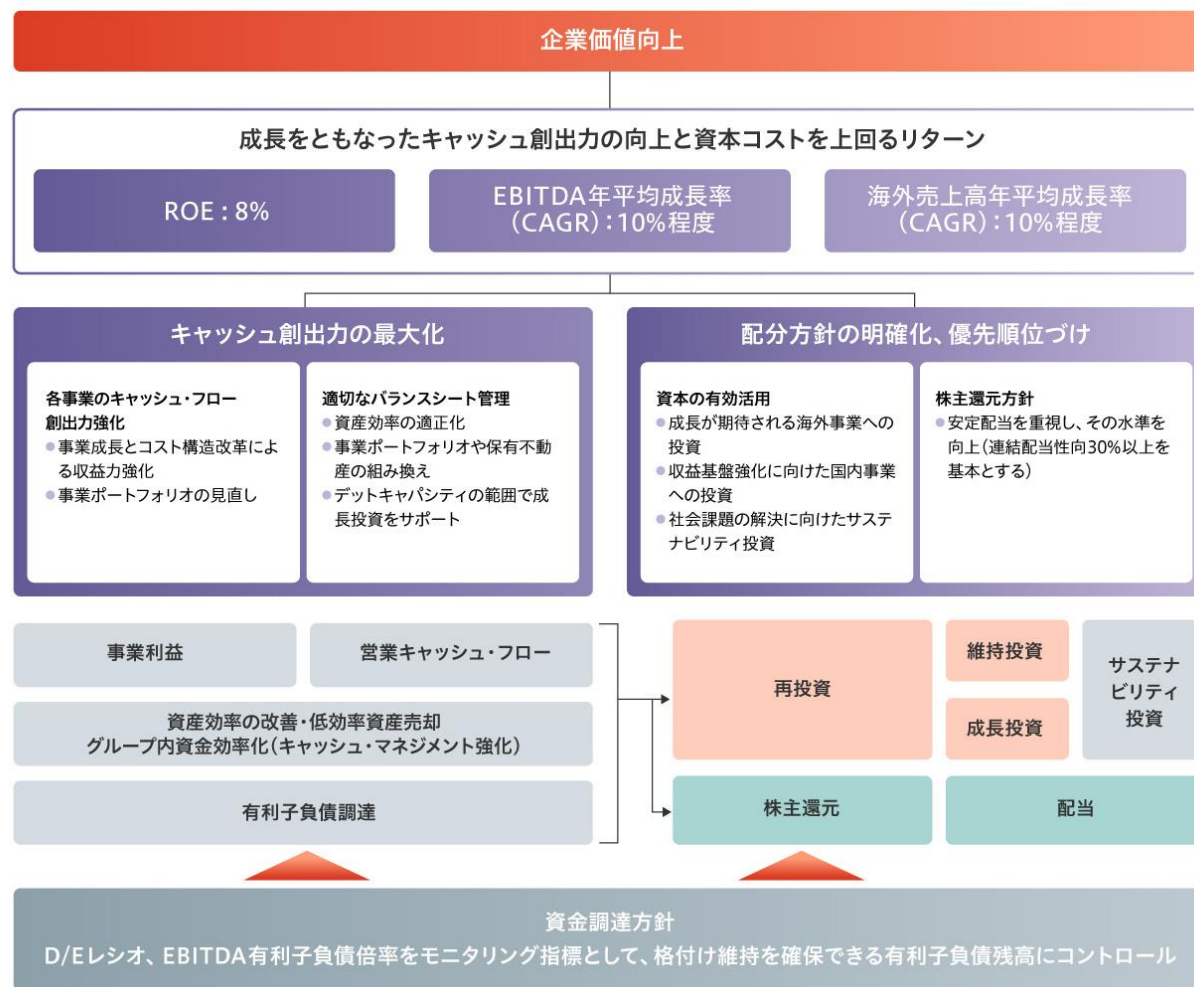
シンガポールを起点にマレーシア、中東など成長余地のある国での売上拡大

不動産 **強化・成長** ROA 4.9% (22年実績) ⇒ 5.7% (26年目標)
(EBITDAベース)

保有物件の価値向上とまちづくり

財務戦略

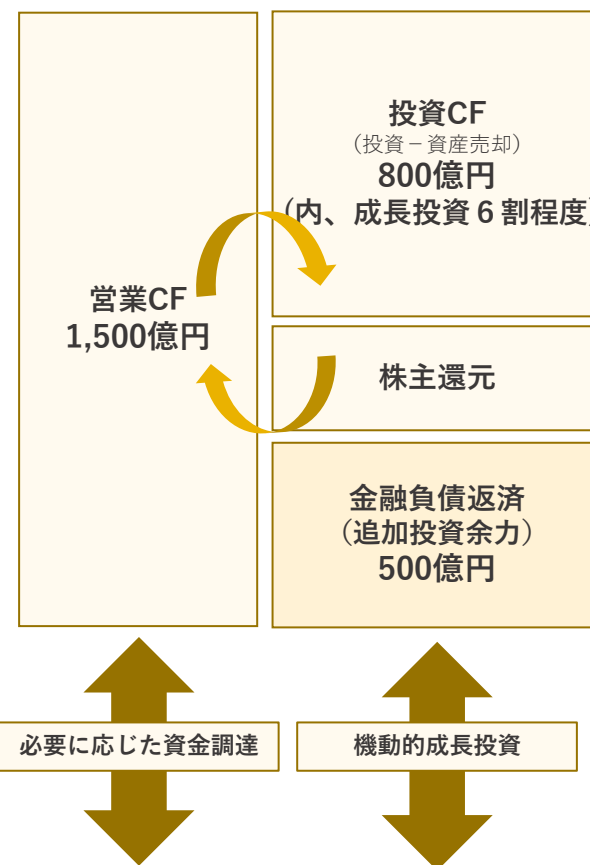
持続的成長と資本効率を重視した財務戦略を推進し、企業価値向上を確かなものにします。
ROE8%を目標に、キャッシュ創出力の向上と資本コストを上回るリターンを追求します。



4年間のキャッシュアロケーション（2023年～2026年計画）

キャッシュイン

キャッシュアウト



政策保有株式の縮減

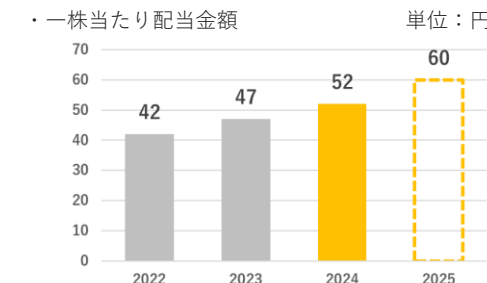
◆2024年までの目標：対資本の20%未満→**達成済**

◆2026年までの目標：対資本の10%未満

配当

2024年度は利益成長に伴い増配を決定

2025年度も3期連続の増配を予定



財務柔軟性の確保

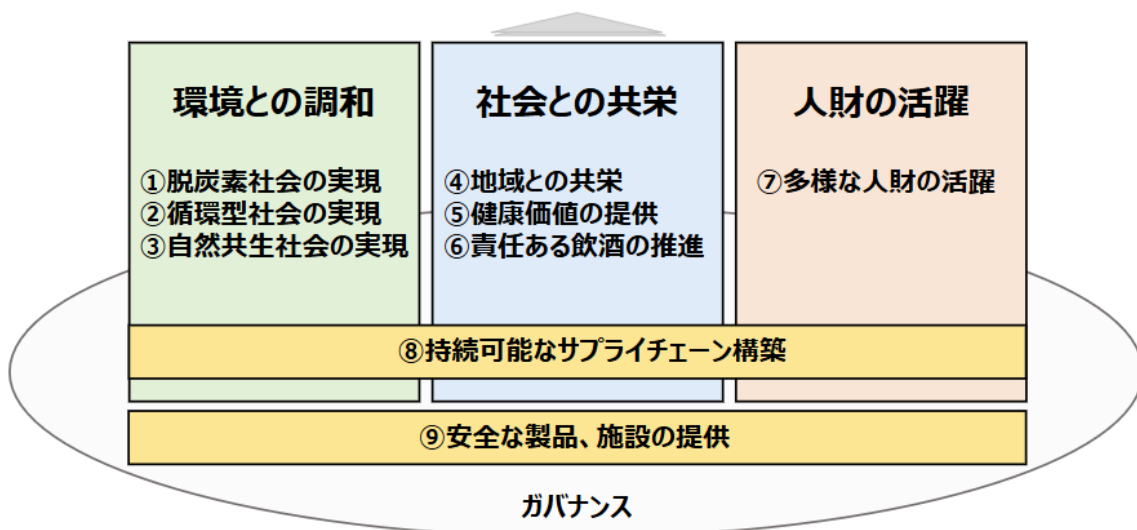
- ・金融負債を圧縮して財務安全性を強化
- ・有益な成長投資機会には追加投資余力を活用して柔軟に対応

格付け維持を確保できる
範囲でレバレッジ活用

サステナビリティ戦略

サッポログループは、「事業による社会・環境への影響度」と「社会・環境による自社財務への影響度」をリスク・機会の側面から評価し、事業活動を行うにあたり特に重要と捉えて重点的に取り組む「サステナビリティ重点課題（マテリアリティ）」として、9項目を設定しています。サッポログループを取り巻く社会情勢、事業環境の変化に伴い適宜見直しをしており、2025年、重点課題を一部更新しました。中でも、「脱炭素社会の実現」「自然共生社会の実現」「地域との共栄」「責任ある飲酒の推進」「多様な人財の活躍」を経営上特に重視する課題として位置付けています。

全ての事業が提供する時間と空間で、
人々と地域社会のWell-beingに貢献



経営基盤強化

3つの基本戦略を着実に実行し、経営目標を達成していくために、「人財」「DX」「R&D」といった経営基盤強化を図ります。

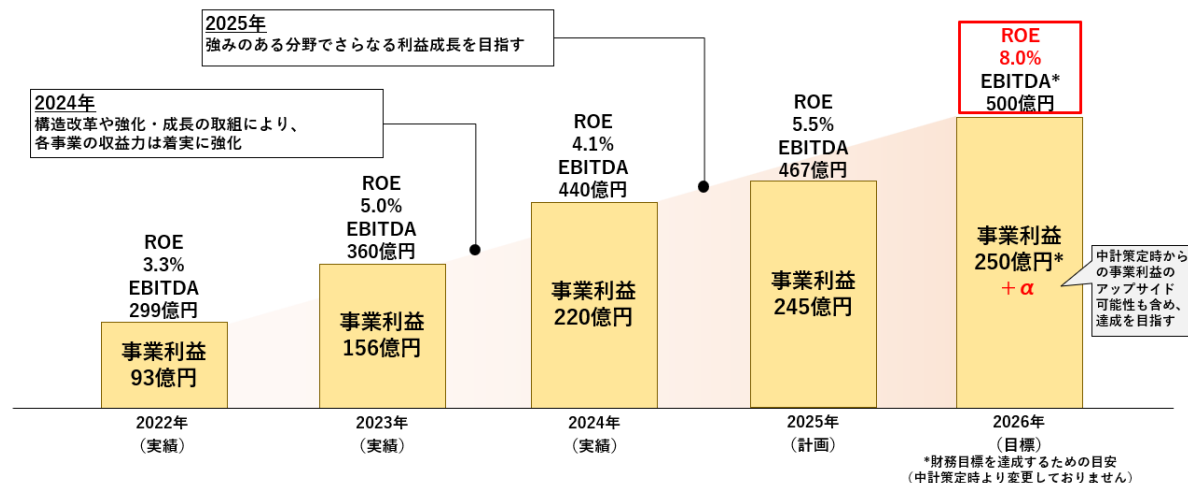
重点施策		具体策（～2026年） 対象：ホールディングス社および主要グループ企業
人財	① スピードある成長に向けた積極投資 ② 多様性の促進 ③ エンゲージメント向上と健康促進 ④ 経営人財育成	① グローバル人財育成体系に基づいた育成・確保への積極投資と戦略的配置 ② D&I推進のための環境を整備し、女性取締役・管理職比率12%以上を達成 ③ 支援型マネジメント力の強化とメンタルタフネス支援でワークエンゲージメントを向上 ④ グループ全体のサクセッションプランに基づいた成長支援と配置
	DX	① DX・IT戦略の推進体制構築 ② 組織・人財マネジメント整備 ③ 育成人財の活躍、環境整備・運営

目指す姿		重点施策	
R&D	- 当社の強みを世の中が求める価値に転換して継続的に提供 - 新たなカテゴリや市場の創出	酒類	持続可能な原料調達のための技術開発 …… 気候変動に対応する大麦・ホップ お酒のおいしさ・機能の追究 …… 「酔い・健康」の科学的解明と事業活用 新しい飲用体験の追究 …… デジタル活用による共感醸成、エンタメ提供など
		食品飲料	レモンの健康機能、品質向上研究 …… レモン果汁の用途拡大 未利用資源からの新価値創出 …… レモン丸ごとの素材活用

中期経営計画の進捗

- 各事業の収益力向上により、事業利益は着実に伸長
- 2026年のROE8%達成が十分見通せる段階に来ている

事業利益推移



- 2024年も「強化・成長」「構造改革・事業整理」の両面で取組を実行

2024年までの主な成果



- 財務目標・事業利益率目標に対し概ね順調に進捗
- 国内酒類を中心に事業利益率が向上しているが、海外酒類は苦戦

【財務目標】

	2022年実績	2024年実績	2025年計画	2026年中計目標	中計目標に向けた進捗状況*2
ROE	3.3%	4.1%	5.5%	8.0%	→
(目安) 事業利益*1	93億円	220億円	245億円	250億円	↗
EBITDA 年平均成長 (CAGR)		21.4%	16.0%	10%程度	→
(目安) EBITDA*1	299億円	440億円	467億円	500億円	→
海外売上収益 年平均成長 (CAGR)		12.1%	8.4%	10%程度	↘
(目安) 海外売上収益*1	1,022億円	1,285億円	1,303億円	1,400億円	↘

*1 財務目標を達成するための目安 (中計策定時より変更していません)

*2 現時点における見直し。水平方向の矢印は想定通り、上向き矢印はアップサイド、下向き矢印はダウンサイドの可能性が高いことを示しております

【事業利益率目標】

	2022年実績	2024年実績	2025年計画	2026年見通し	2026年中計目標
国内酒類	3.5%	6.0%	7.0%	7.5%	5.7%
海外酒類	▲0.4%	0.4%	0.4%	2.8%	6.2%
外食	▲3.3%	9.3%	9.1%	9.0%	5.0%
国内食品飲料	0.9%	2.5%	3.4%	4.4%	3.8%
海外飲料	3.6%	4.3%	4.7%	5.6%	5.0%
不動産事業 (※ EBITDAベースのROA)	4.9%	5.5%	5.2%	6.0%	5.7%

サッポログループ中長期成長戦略について

<課題認識>

- ①低収益性
過去10年間（2013～2022年）の平均事業利益率は2.5%、平均ROEは3.0%と低水準
- ②事業ポートフォリオの分散
多角化した事業ポートフォリオにより経営資源が分散し、投資の競合が発生している
- ③中長期的に目指す姿の必要性
現中期経営計画の先に、グループとして目指す中長期の経営方針を示すことが必要

<中長期経営方針>

国内外の酒類事業を中核とし、成長分野に経営資源を集中

変革の実行力を高めるため、組織形態や組織運営の在り方等の再構築に取り組む

資本効率の改善を重要課題と捉え、ROE10%以上の達成を目指す

<サッポログループ中長期成長戦略>

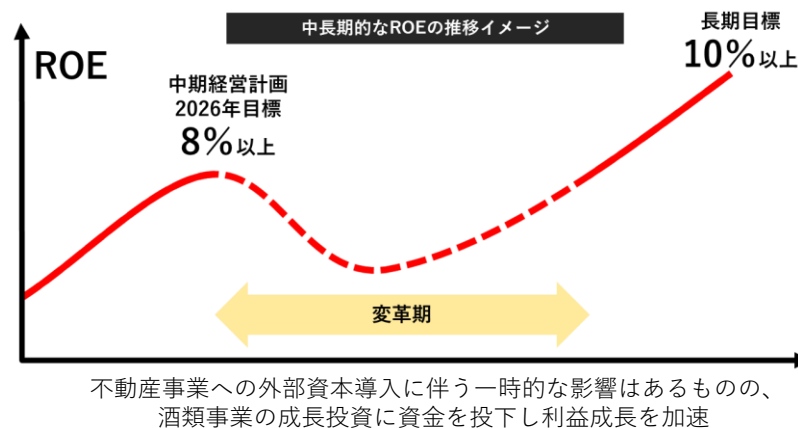
中長期ビジョン

世界をフィールドに

豊かなビール体験、顧客体験を創造する企業

中長期戦略骨子

- | | |
|------------------------|----------------------------------|
| ① Bonds with Community | 顧客接点の拡大と豊かなライフスタイルの提供 |
| ② Healthier Choice | 幅広いカテゴリーでの健康的な選択肢の提供 |
| ③ Efficient Foundation | 事業持株会社体制へ一経営効率向上・ガバナンス・経営スピードの強化 |
| ④ Strategic Alliance | 戦略的提携による継続的成長と事業拡大の加速 |
| ⑤ Inorganic Growth | 酒類事業への大型投資—M&Aを含めた様々な戦略を検討 |



<不動産事業への外部資本導入> サッポログループからのオフバランス

サッポログループの目的

グループの経営リソースを酒類事業に集中し、外部資本導入により捻出されることが期待される資金を酒類事業の成長投資に投下する

資産収益性の向上およびグループの企業価値を向上

サッポロ不動産開発株式会社の目的

戦略パートナーの資本を取り入れる等により、保有物件の価値を高め、企業価値を向上

策定した中長期ビジョンの実現に向けて、5つの戦略骨子に基づき酒類事業に経営リソースを集中し、資本収益性の向上を目指す

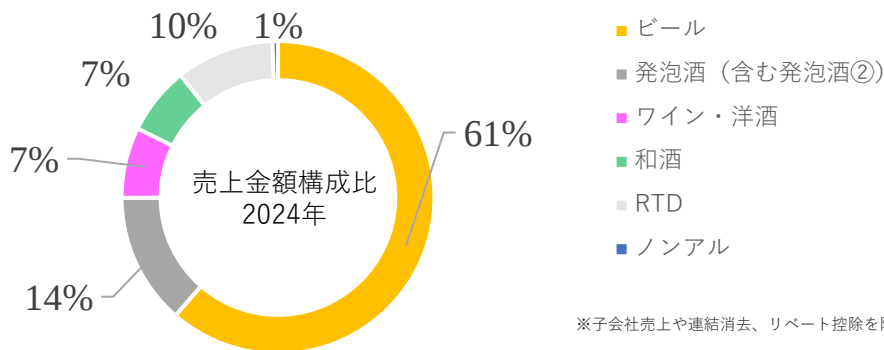
サッポロビール株式会社

基本情報

1876年の創業以来モノ造りにこだわり、その中で「サッポロ生ビール黒ラベル」「エビスビール」という2つのブランドをお客様と共に育んでまいりました。一方、日本で唯一のビール博物館である「サッポロビール博物館」、恵比寿の地名の由来である、エビスブランドのリアル体験施設「YEBISU BREWERY TOKYO」、ならびに日本のビール文化を健全に発展させる目的で2012年から開始した「日本ビール検定」などを通じ、世界に誇る日本のビール文化の醸成にも貢献しています。全ての商品やサービスにより磨きをかけ、お酒と人との未来を創る酒類ブランドカンパニーを目指していきます。

事業内容

ビール・発泡酒・RTD・ワイン・焼酎などの製造販売、洋酒の販売他



※子会社売上や連結消去、リポート控除を除く

※2021年から氷彩サワー+99.99樽は洋酒→RTDへ組替

主要ブランド



沿革

- 1876年9月 開拓使麦酒醸造所設立
- 1949年9月 日本麦酒株式会社発足
(1964年にサッポロビール株式会社と社名変更)
- 2003年7月 サッポログループの純粋持株会社移行により、
酒類事業を担う新・サッポロビール(株) を設立

生産拠点・見学施設

ビール工場		見学施設	
北海道工場	北海道恵庭市	サッポロビール博物館	北海道札幌市
千葉工場	千葉県船橋市	YEBISU BREWERY TOKYO	東京都渋谷区
静岡工場 ※1	静岡県焼津市	ワイナリー	
九州日田工場	大分県日田市	岡山ワイナリー	岡山県赤磐市
RTD工場			
仙台工場 ※2	宮城県名取市		

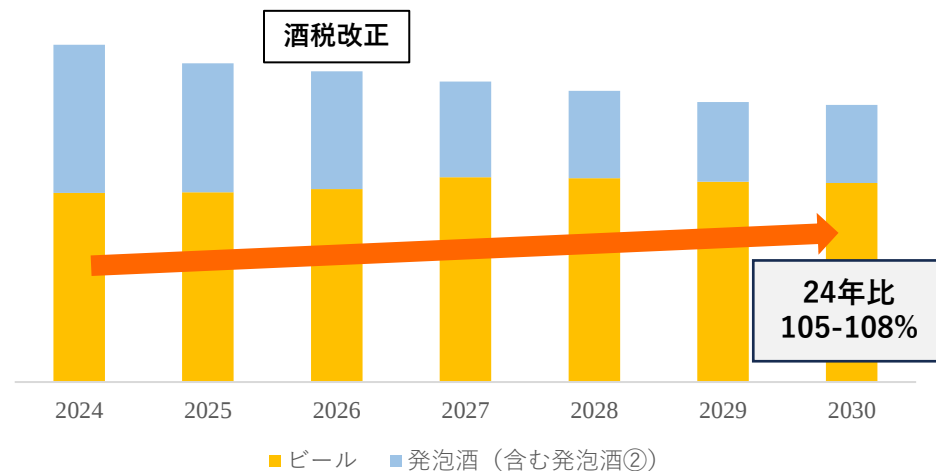
※1 RTD製造含む

※2 2023年10月～仙台ビール工場をRTD工場として再編

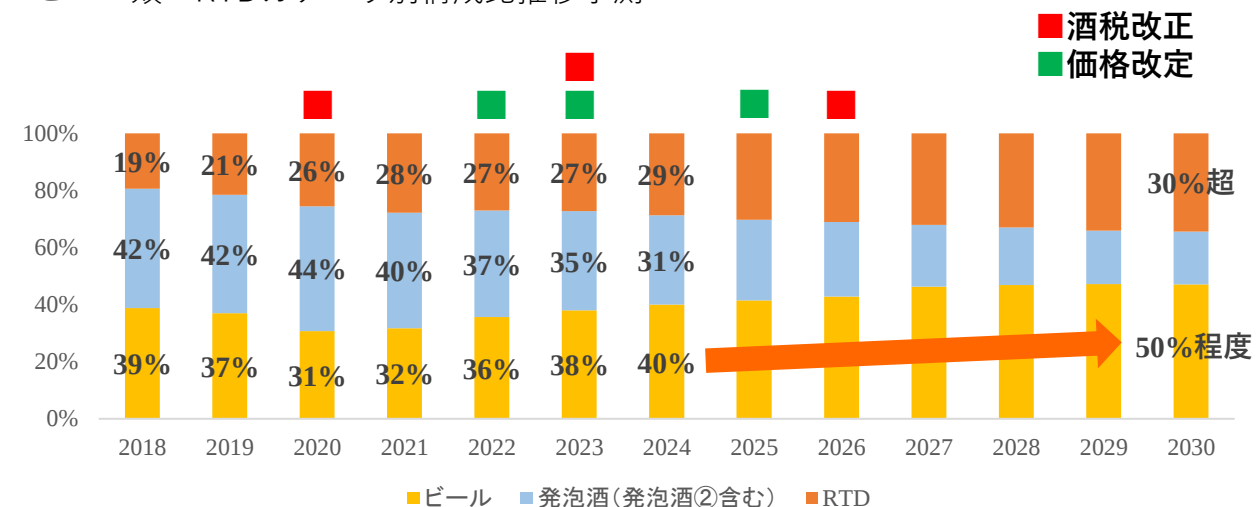
国内酒類_市場動向

ビール類の市場は減少傾向が続く見通しだが、酒税改正により発泡酒から狭義のビールへのシフト、RTD市場の増加が見込まれる
特にビール類カテゴリの内、**2030年には狭義のビール構成比が70%程度まで拡大**する可能性を見込む

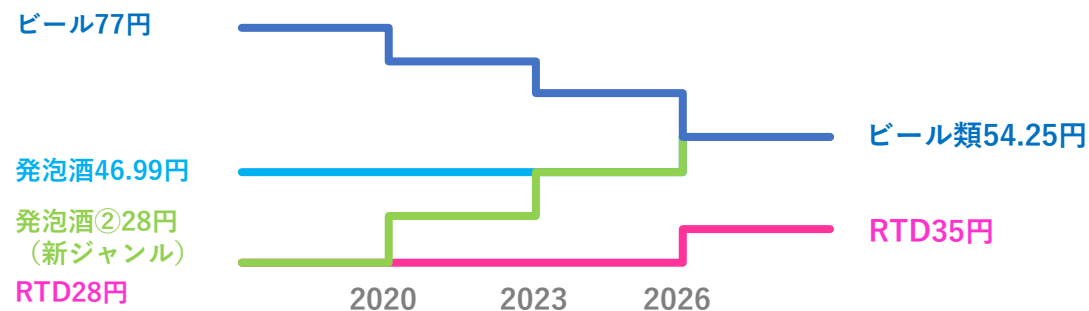
ビール類総需要予測※



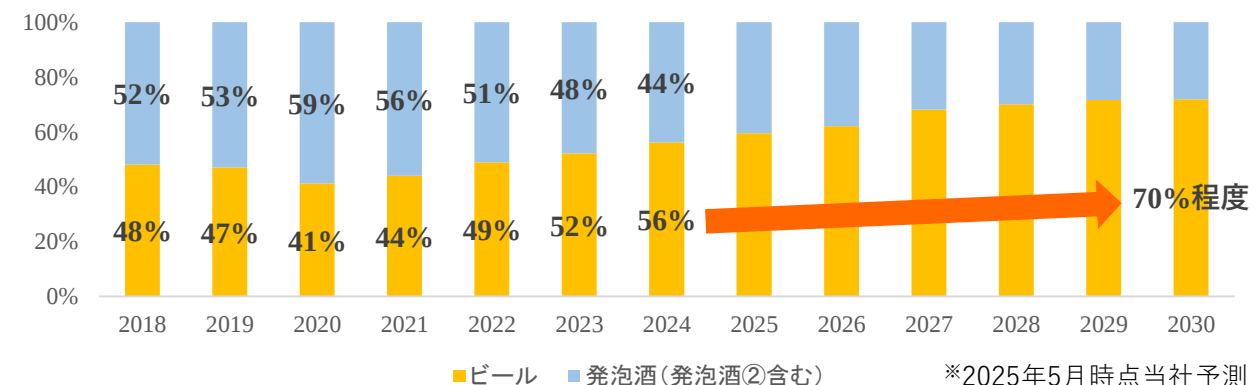
ビール類・RTDカテゴリ別構成比推移予測※



酒税改正による酒税額の推移（350ml当たり）



ビール類カテゴリ別構成比推移予測※

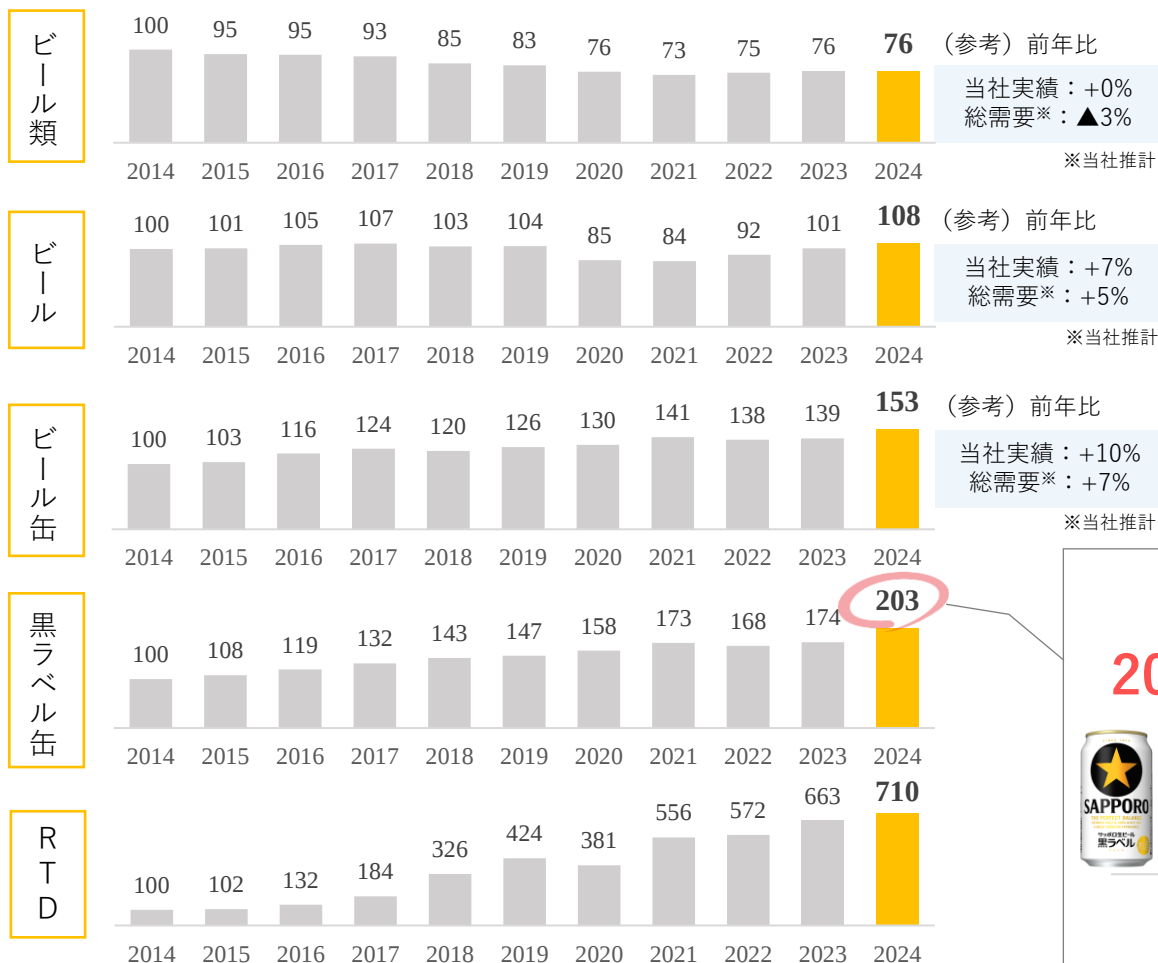


※2025年5月時点当社予測

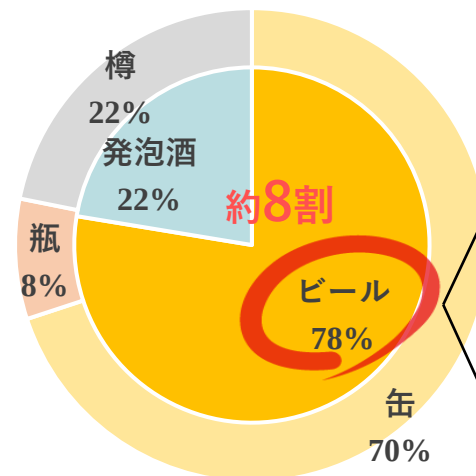
国内酒類_当社実績

市場と比較し、ビール類全体における当社のビール構成比は8割程度と高く、ビールに強みがある
販売数量ベースで、当社のビール缶は10年間で約1.5倍、特に黒ラベル缶は約2倍に成長してきている

販売数量推移（2014年を100とした場合の増減）



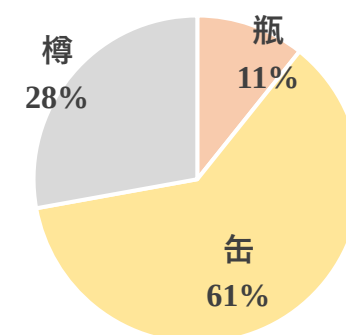
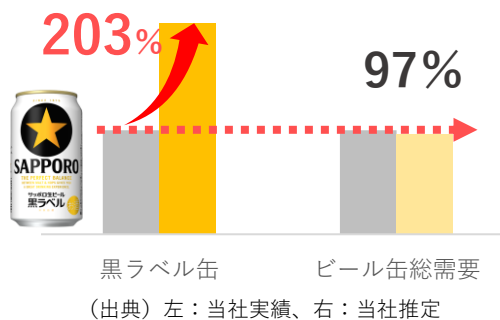
ビール類 販売数量ジャンル別・容器別構成比（2024年実績）



ビール 販売数量ブランド別構成比（2024年実績）



ビール 販売数量容器別構成比（2024年実績）

黒ラベル缶販売数量実績
2014 vs 2024

酒類事業における海外展開（カナダ・米国・ベトナム・APAC・欧州）

基本情報

1964年の米国向けのビールの輸出からスタートし、今では米国、カナダ、ベトナムを中心に約45か国で展開しております。
売上収益は10年間で約2倍に拡大し、当社グループの成長ドライバーに位置付けています。

事業内容

ビールの製造、輸入、販売

(2024年実績数量ベース/すべて大瓶換算)

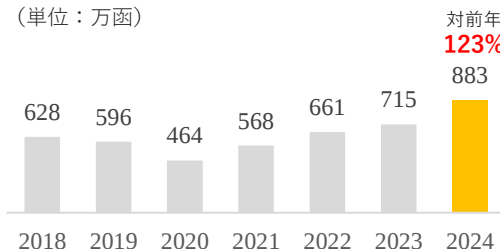


※APAC・欧州は輸出事業のため、国内酒類セグメントに分類されます

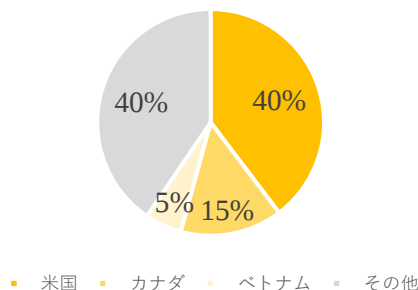
海外酒類売上収益（酒税込み）推移
(単位：億円) ※非継続事業除く



サッポロブランド 海外販売数量推移
(単位：万箱)



サッポロブランド 海外販売エリア構成比



海外酒類 販売数量ブランド構成比

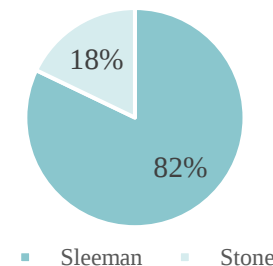


1箱は大瓶633ml×20本で換算

海外ブランド 販売数量推移
(単位：万箱)



海外ブランド ブランド構成比



カナダ：SLEEMAN BREWERIES LTD.

概要

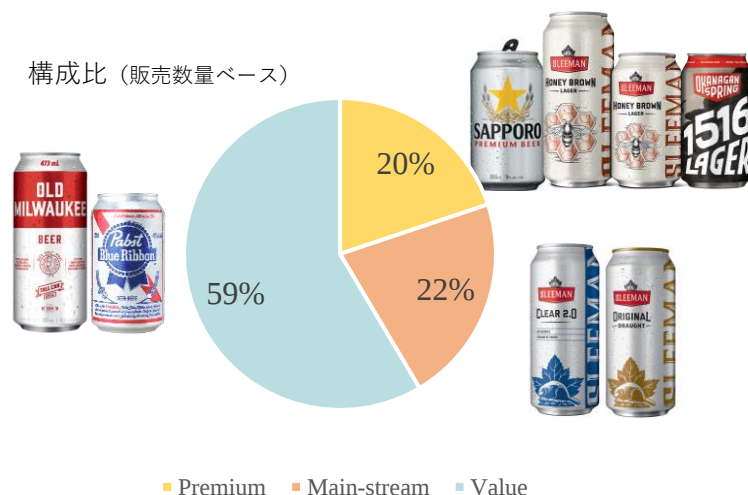
- ・カナダ第3位ビールメーカー
- ・子会社になって以来、売上金額は約2.5倍に

沿革

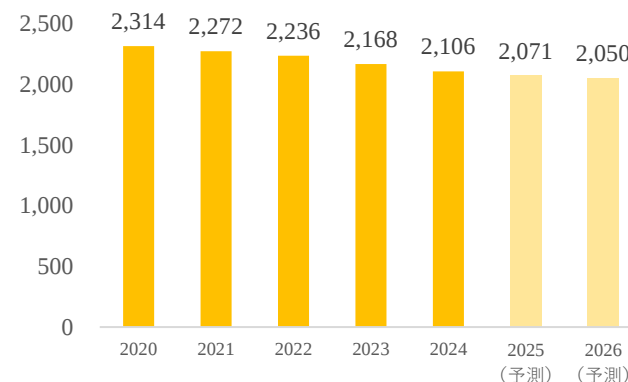
- 1834年 創業
- 1988年 SLEEMAN BREWERIES LTD. 設立
- 2006年 SLEEMANの全持分を取得

主要ブランド

構成比（販売数量ベース）

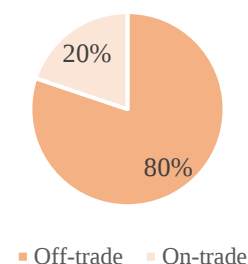


カナダ国内 ビール市場規模 単位：千KL

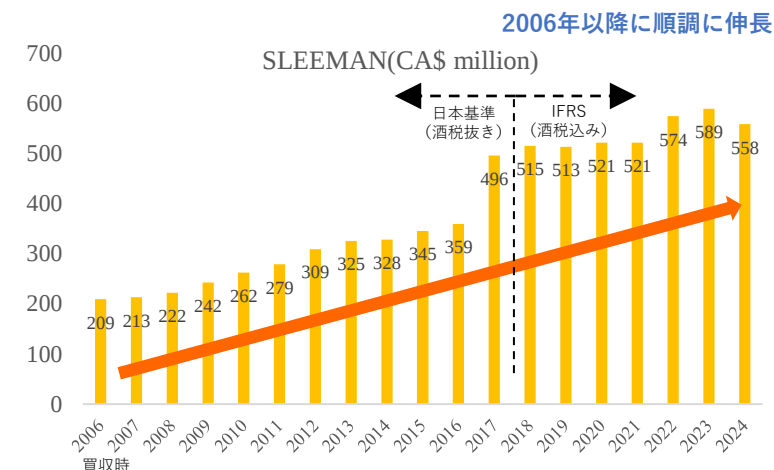


出典:ユーロモニター
数量ベース抽出
(2025年5月時点)

構成比(2024実績)

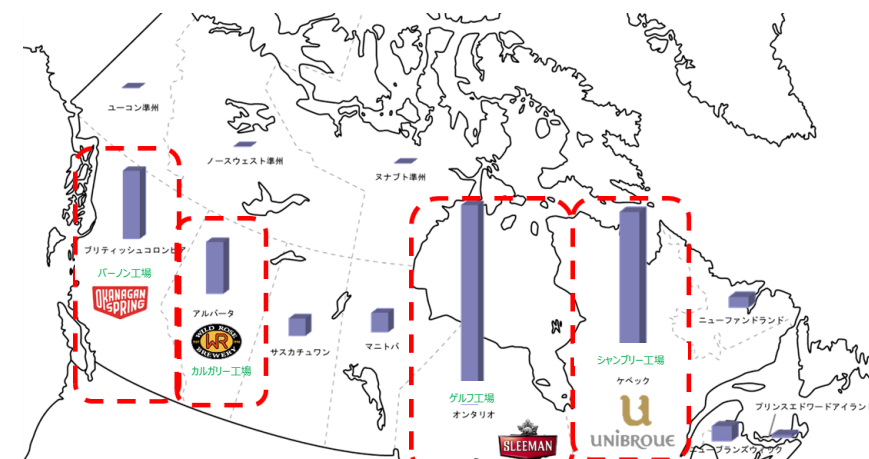


スリーマン 現地通貨建て売上金額推移（連結消去前）



生産拠点

- 生産拠点 4工場
(ゲルフ、バーノン、シャンブリー、カルガリー)
生産能力 23万KL
(ゲルフ12.7万KL・バーノン7.5万KL
・シャンブリー2.3万KL・カルガリー0.3万KL)



米国：SAPPORO U.S.A.,INC./Sapporo Stone Brewing Co.

概要

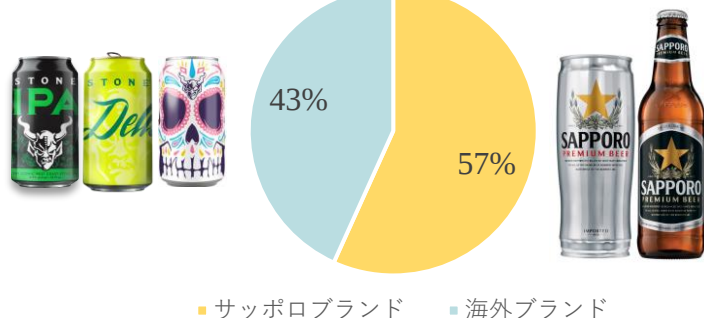
- ・1964年から、米国向けにビールの輸出を開始
- ・以降、販路を拡大させ、成長が継続
- ・2022年に買収したStoneが保有する2工場で、サッポロブランドを製造し、成長を加速させる

沿革

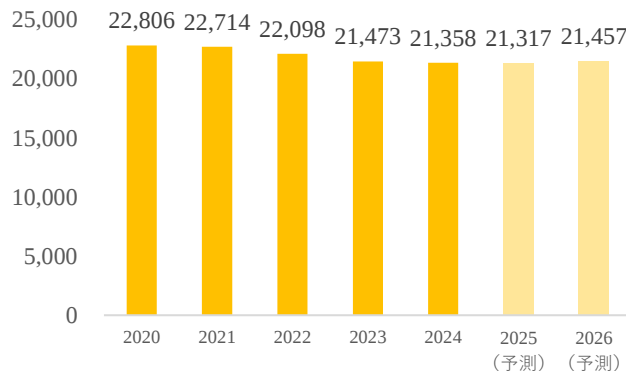
- 1964年 米国向けの輸出開始
- 1984年 SAPPORO U.S.A.,INC.設立
- 2016年 Stone Brewing Co.,LLC設立（創業は1996年）
- 2022年 サッポログループがStoneの全持分を取得
- 2023年 Sapporo Stone Brewing Co.設立

主要ブランド

構成比（販売数量ベース）

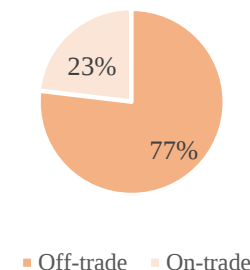


米国内 ビール市場規模 単位：千KL

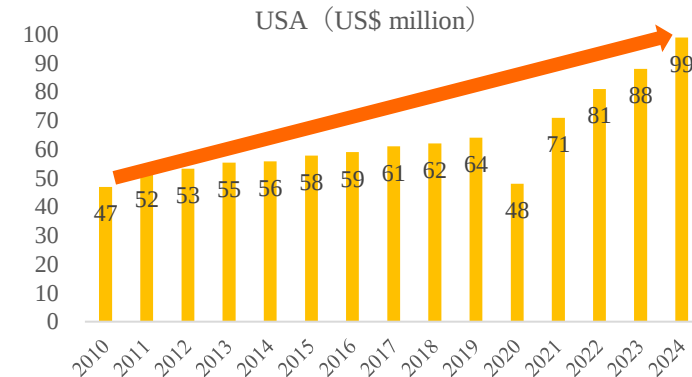


出典：ユーロモニター
数量ベース抽出
（2025年5月時点）

構成比(2024実績)



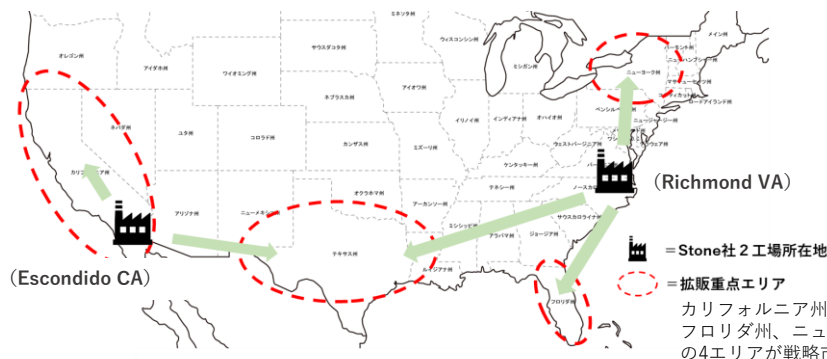
サッポロU.S.A. 現地通貨建て売上金額推移（連結消去前）
※サッポロブランドのみ 2020年は新型コロナウイルスの影響で減少



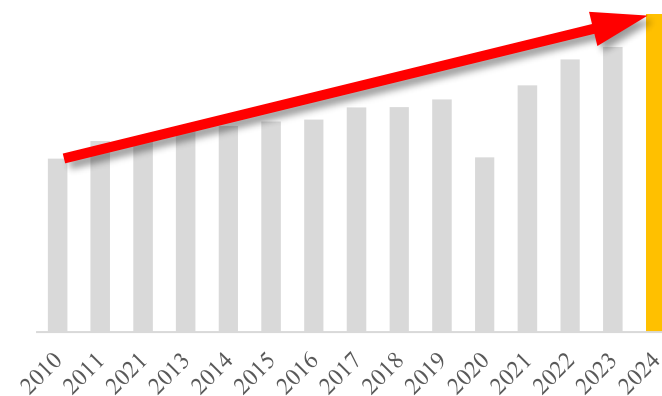
生産拠点

Escondido CA、Richmond VA

- ・従来はカナダ・ベトナムから輸入であったが、2024年～はStone社が東西に保有する工場での製造開始



米国でのサッポロブランドの拡大状況
（販売数量ベース） 2010年比 **1.8倍**の成長



ベトナム：SAPPORO VIETNAM LTD.

概要

- ・日本のビールメーカーとしては初めて、ベトナムにビール工場を建設し市場参入
- ・東南アジアにおけるサッポロブランドの販売拡大のための橋頭堡

沿革

2010年 SAPPORO VIETNAM LTD.設立
2011年 ロンアン工場竣工

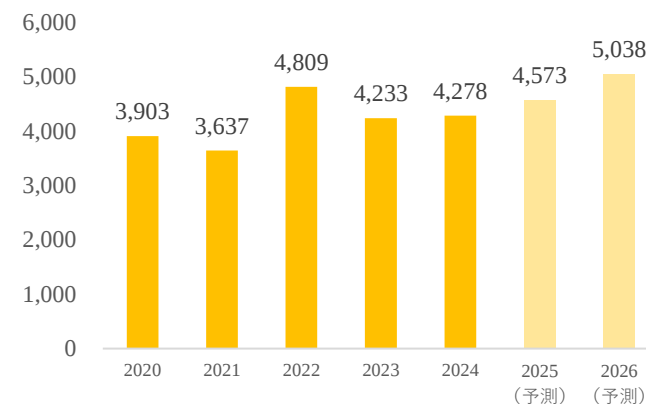
主要ブランド



生産拠点

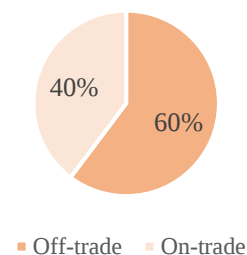
ロンアン工場
生産能力 6万KL

ベトナム国内 ビールの市場規模 単位：千KL

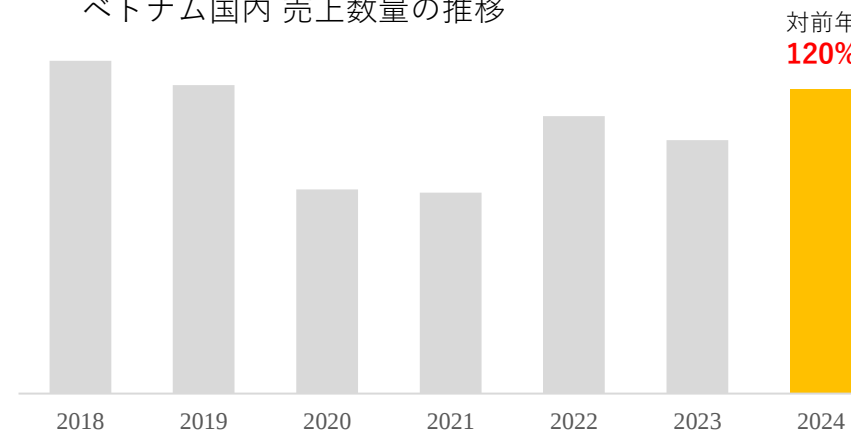


出典:ユーロモニター
数量ベース抽出
(2025年5月時点)

構成比(2024実績)



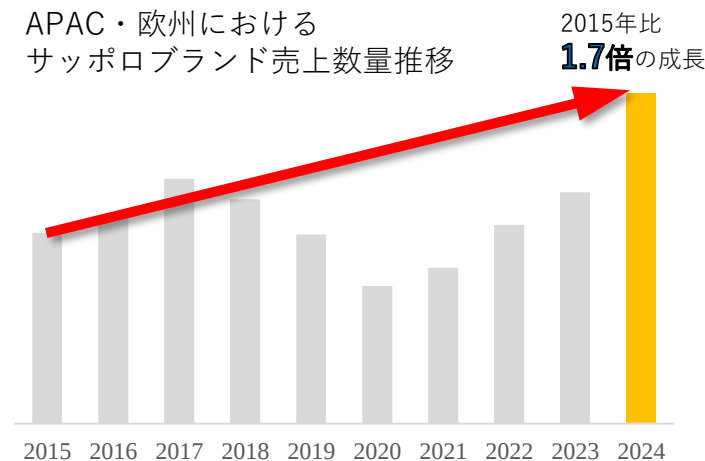
サッポロベトナム
ベトナム国内 売上数量の推移



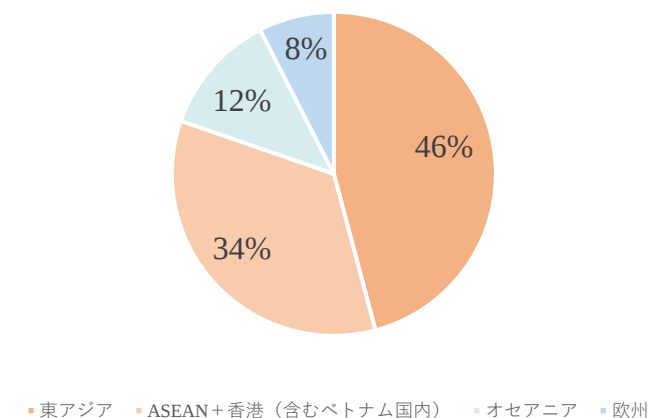
APAC・欧州※

※APAC・欧州は輸出事業のため、国内酒類セグメントに分類されます

APAC・欧州における
サッポロブランド売上数量推移



APAC・欧州における
サッポロブランド 販売数量エリア構成比



株式会社サッポロライオン

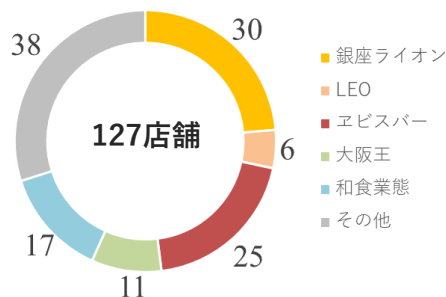
基本情報

1899（明治32）年、東京銀座にわが国初のビヤホールを開店して以来、外食産業のパイオニアとして各種飲食店を経営。「JOY OF LIVING WITH BEER - すべての人々にビールの美味しさを通じて、『生きている喜び』を提供する -」を理念に掲げ、グループのなかでお客様との接点を担い、ブランド発信拠点として国内酒類事業との連携を強化しています。

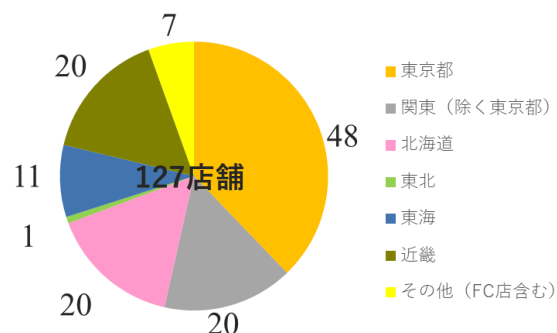
事業内容

ビヤホール、レストランの運営
ビヤホール「銀座ライオン」、ビヤバー「YEBISU BAR」を中心に、小型ビヤホール「銀座ライオンLEO」、和食業態など複数の業態・ブランドにて店舗展開

店舗数業態構成比



店舗数地域別構成比



※2024年12月末現在

沿革

1899年8月4日

日本初のビヤホール「恵比寿ビール BEER HALL」東京・銀座に誕生
（サッポロライオン社の創業）

1949年9月

日本共栄株式会社設立（サッポロライオン社の創立）

主要ブランド

★ビヤホールライオン 銀座七丁目店



1934年開店、現存する日本最古のビヤホール。
この1階のビヤホールは開業以来、変わらぬ佇まいのまま、現在に至ります。
当ビヤホールがある「銀座ライオンビル」は、2022年2月17日付で、国の登録有形文化財（建造物）として登録されました。

★エビスバー

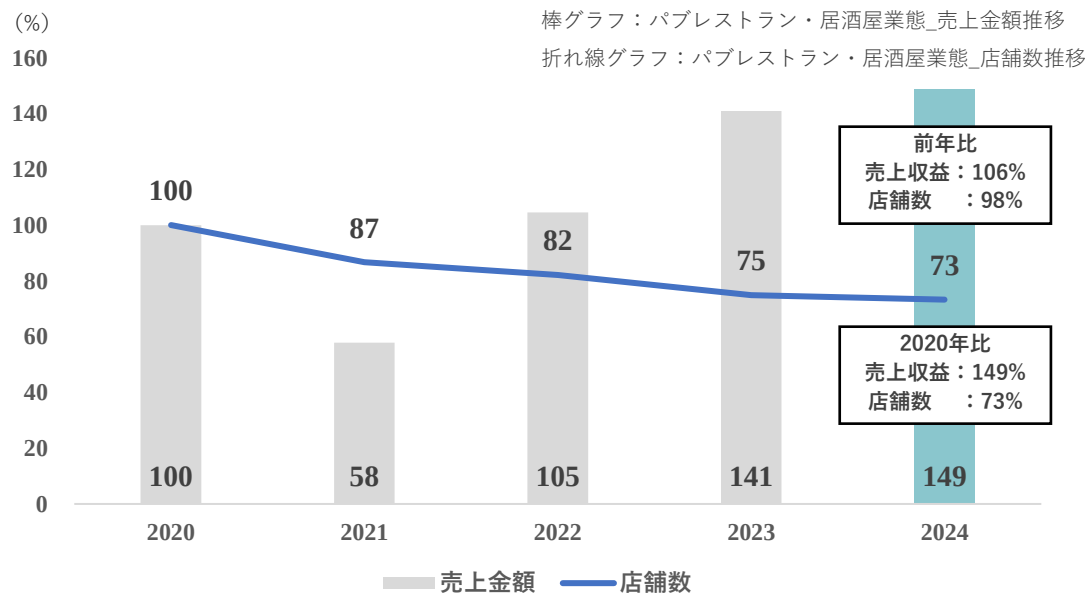


“ALL FOR YEBISU - エビスの全てが、ここにある。”がコンセプトのエビスの魅力を味わっていただくためのビヤバーです。

外食_市場動向

外食産業動向（2020年を100とした場合の増減）

外食産業市場データの出典：日本フードサービス協会



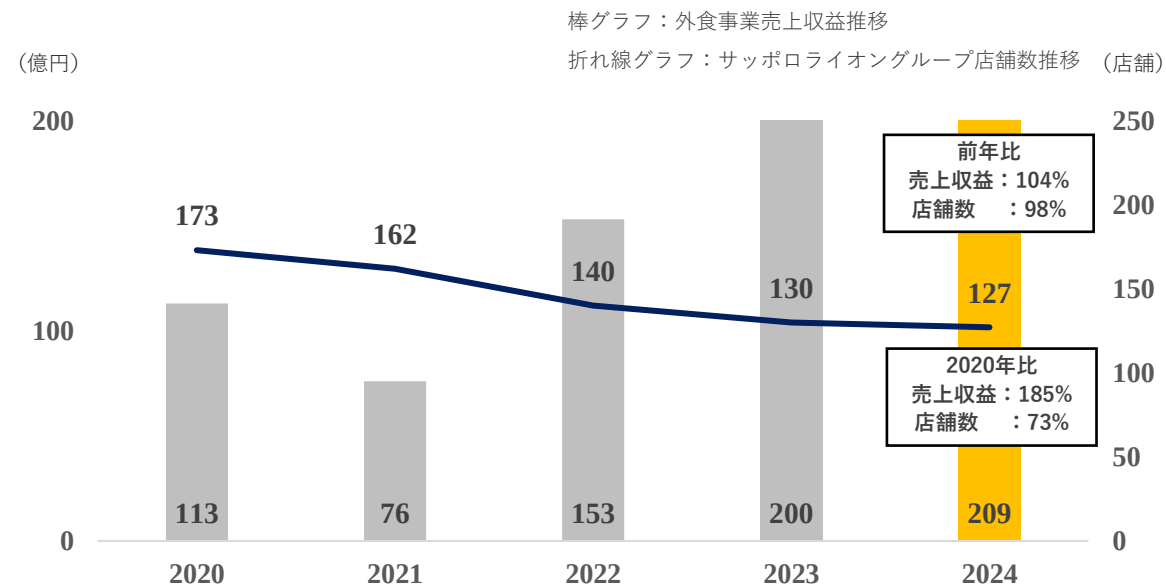
2024年 パブレストラン・居酒屋業態全店ベース売上実績（前年比）

（前年同月比）	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
売上高	110%	111%	106%	106%	106%	107%	103%	104%	104%	105%	107%	101%
客数	107%	108%	102%	104%	105%	104%	101%	100%	101%	103%	104%	99%
客単価	103%	103%	104%	102%	100%	102%	102%	104%	103%	102%	103%	102%

出典:日本フードサービス協会

外食_当社実績

売上収益と店舗数の推移



2024年 サッポロライオン社既存店売上実績（前年比）

（前年同月比）	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
売上高	119%	118%	110%	106%	103%	108%	102%	105%	106%	104%	110%	103%
客数	113%	112%	105%	103%	99%	103%	98%	100%	102%	103%	104%	99%
客単価	105%	105%	105%	103%	104%	105%	104%	105%	105%	102%	105%	104%

色塗り箇所はパブレストラン・居酒屋業態全店ベース売上実績を上回る

ポッカサッポロフード&ビバレッジ株式会社

国内食品飲料

海外飲料

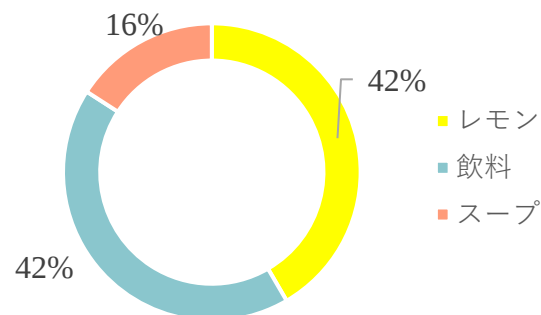
基本情報

ポッカサッポロフード&ビバレッジは、サッポログループの食品・飲料事業を担い、食品や飲料に関わるビジネスを国内外で広く展開しています。国内ではレモンを中心に、飲料、スープなど、素材を活かしたユニークな商品を開発し、事業を展開しております。

事業内容

飲料水及び食品の製造販売他

★ポッカサッポロフード&ビバレッジ
主要3カテゴリ売上金額構成比（国内）



沿革

- 1957年1月 日本麦酒株式会社が国際飲料株式会社を設立
＜旧サッポロ飲料の創業＞
- 1957年2月 レモン飲料の製造販売を目的としてニッカレモン株式会社を設立
＜旧ポッカコーポレーションの創業＞
- 2013年1月 ポッカサッポロフード&ビバレッジ株式会社として事業開始

主要ブランド



生産拠点

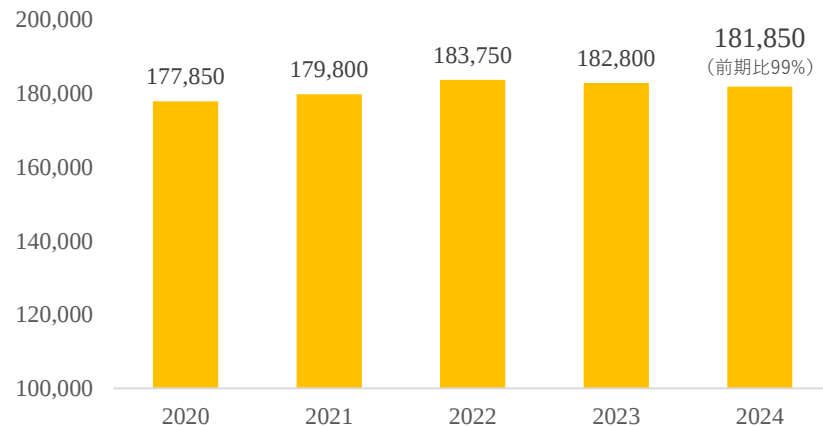
食品・飲料工場（名古屋、群馬、仙台）
食品製造関係会社（磐田）



飲料_市場動向

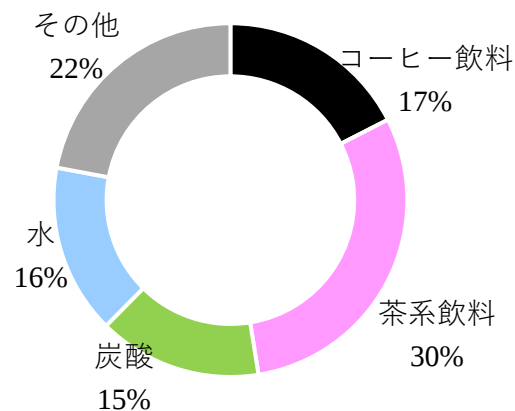
★日本国内 飲料市場の規模 単位:万ケース 2024年

出典:飲料総研『飲料ビジネス3月号』数量ベースで抽出



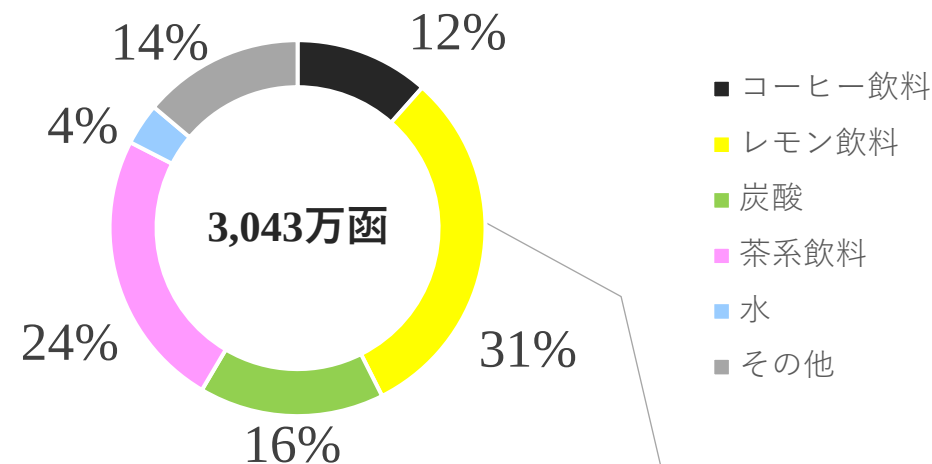
★日本国内 飲料市場カテゴリ別構成比 2024年

出典:飲料総研『飲料ビジネス3月号』数量ベースで抽出

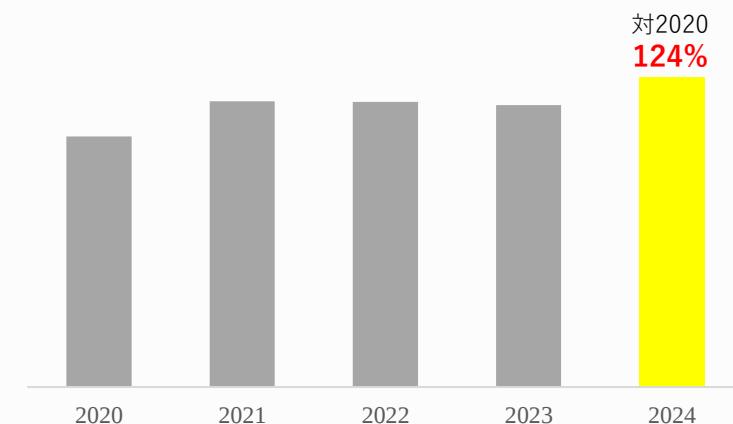


飲料_当社実績

★国内：ポッカサッポロフード&ビバレッジ 国内飲料ジャンル別販売数量 構成比



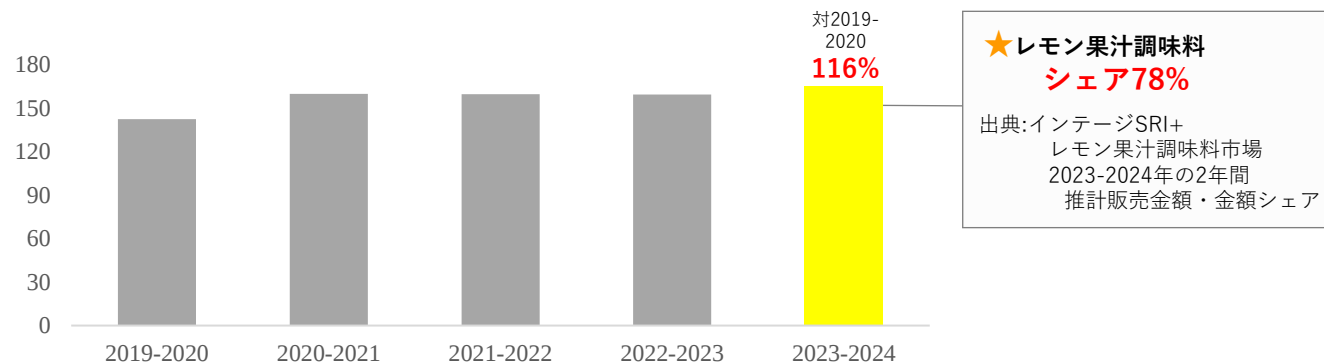
★レモン飲料売上金額推移 ※2020年を100とした場合の伸長率



レモン食品_市場動向

★レモン果汁調味料 市場規模推移（億円）

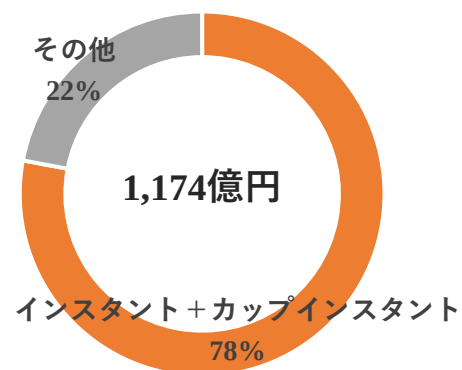
おいしさに加えて、機能性が評価されていることでレモン市場は拡大が続く見込み



スープ_市場動向

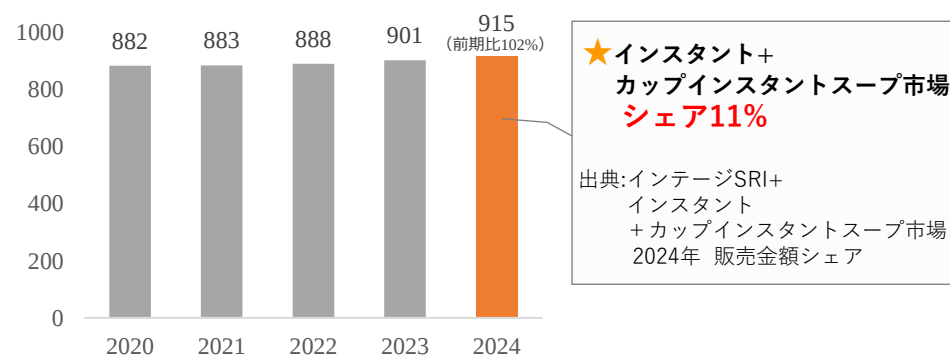
★日本国内 スープ市場カテゴリー別構成比

出典: インテージSRI+ スープ市場 2024年 販売金額



★日本国内 インスタント+カップインスタントスープ市場（億円）

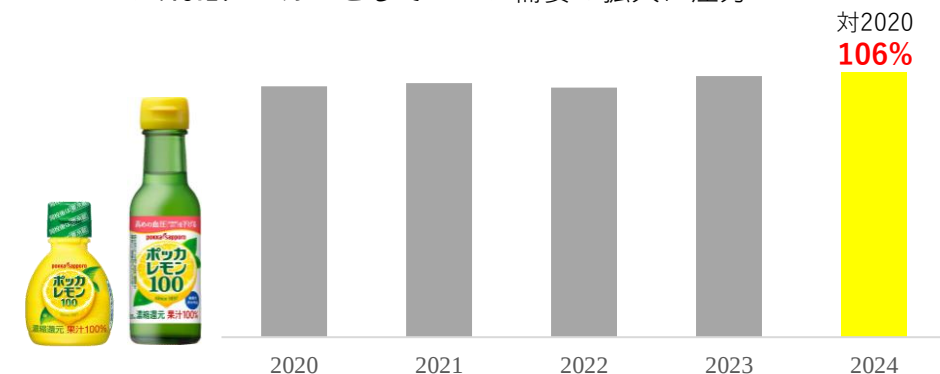
出典: インテージSRI+ インスタント、カップインスタントスープ市場 2020-2024年 販売金額



レモン食品_当社実績

★レモン食品売上金額推移 ※2020年を100とした場合の伸長率

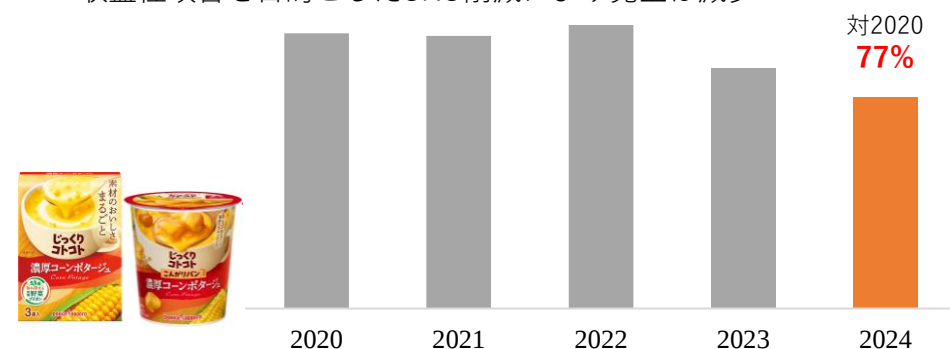
レモンNo.1メーカーとしてレモン需要の拡大に注力



スープ_当社実績

★スープ売上金額推移 ※2020年を100とした場合の伸長率

収益性改善を目的としたSKU削減により売上は減少





シンガポール：POKKA PTE. LTD.



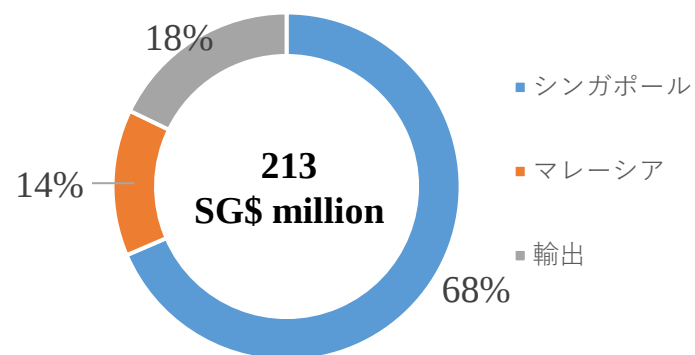
マレーシア：POKKA (MALAYSIA) Sdn. Bhd.

基本情報

1977年、日本の飲料メーカーに先駆けて、海外生産拠点ポッカコーポレーション・シンガポールを設立。シンガポール国内ではジャスミングリーンティーを中心に、茶系飲料で圧倒的なシェアを誇り、果汁飲料、コーヒー飲料でもPOKKAブランドの存在感は増しています。また、シンガポールから東南アジア、中東など世界60ヶ国以上にPOKKAブランドの飲料を輸出しており、更なる成長を目指しています。

事業内容

清涼飲料水の製造、販売



沿革

- 1977年1月 POKKA CORPORATION(SINGAPORE)PTE. LTD.設立
(現：POKKA PTE. LTD.)
- 2014年8月 POKKA (MALAYSIA) Sdn. Bhd.設立

主要ブランド



サッポロ不動産開発株式会社

基本情報

「恵比寿ガーデンプレイス」と「サッポロファクトリー」「サッポロガーデンパーク」を中心とした不動産事業を行っています。1988年に設立されて以来、グループとゆかりの深い恵比寿・札幌・銀座を中心に事業を展開してきました。今後も魅力的な「まちづくり」に取り組むとともに、これまで培ってきたノウハウを最大限活かし、保有物件の価値向上を推進します。

事業内容

不動産の賃貸管理、不動産開発、ホテル運営等

(億円)	事業利益の内訳			EBITDAの内訳		
	2023	2024	増減	2023	2024	増減
YGP関連	47	59	12	85	99	15
賃貸運営	20	22	3	23	29	5
札幌	5	6	1	10	12	2
エクイティ他	▲ 13	▲ 8	4	▲ 5	▲ 0	5
合計	58	78	21	113	140	27

沿革

1988年 設立
 1993年 サッポロファクトリー開業
 1994年 恵比寿ガーデンプレイス開業
 2005年 サッポロガーデンパーク開業
 2016年 G I N Z A P L A C E 開業
 2024年 ホテル創成札幌Mギャラリー開業
 2024年 創成クロス竣工

主な保有不動産

保有不動産の詳細はサッポロ不動産開発（株）のHPに記載しております
<https://www.sapporo-re.jp/business/>

恵比寿ガーデンプレイス (サッポロビール恵比寿工場跡地を再開発)



所在地 東京都渋谷区恵比寿4丁目20番
 東京都目黒区三田1丁目4番、13番
 敷地面積 約83,000㎡ (25,200坪)
 うち当社所有部分 56,943㎡
 建築面積 約32,000㎡ (9,700坪)
 延床面積 約478,000㎡ (144,600坪)
 うち当社所有部分 298,007㎡
 オフィス棟規模 地下5階 地上40階建
 開業 1994年10月

サッポロガーデンパーク (サッポロビール札幌工場（第2製造所）跡地を再開発)



所在地 北海道札幌市東区北7条東9丁目
 商業施設面積 約123,121㎡
 延床面積 約119,731㎡
 開業 2005年

サッポロファクトリー (サッポロビール札幌工場（第1製造所）跡地を再開発)



所在地 北海道札幌市中央区北2条東4丁目
 敷地面積 約47,000㎡ (14,300坪)
 建築面積 約32,400㎡ (9,800坪)
 延床面積 約160,000㎡ (48,400坪)
 開業 1993年4月

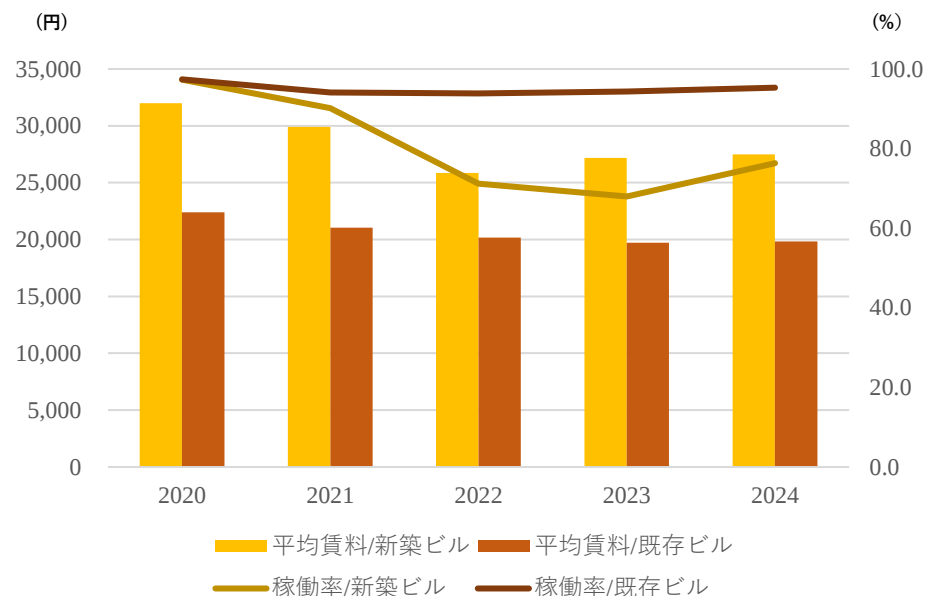
GINZA PLACE (銀座ライオン発祥の地を再開発)



所在地 東京都中央区銀座5-8-1
 敷地面積 約645㎡
 延床面積 約7,350㎡
 規模 地下2階、地上11階建
 開業 2016年9月

不動産_市場動向

東京ビジネス地区オフィス年間平均稼働率・賃料推移 出典：三鬼商事



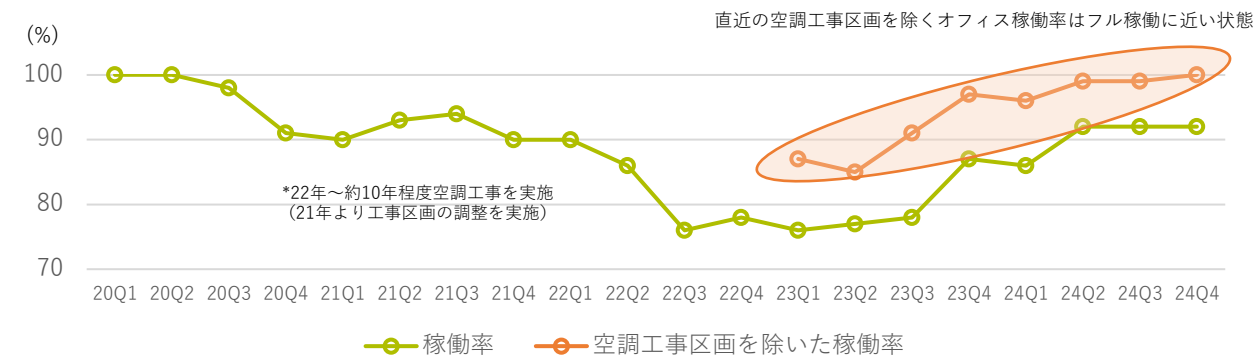
	2020	2021	2022	2023	2024
平均賃料/平均 (円/坪)	22,613	21,150	20,261	19,849	20,005
平均賃料/新築ビル (円/坪)	31,985	29,909	25,841	27,172	27,486
平均賃料/既存ビル (円/坪)	22,381	21,031	20,168	19,727	19,830
稼働率/平均 (%)	97.4	94.1	93.6	93.8	95.0
稼働率/新築ビル (%)	97.3	90.2	71.2	68.0	76.3
稼働率/既存ビル (%)	97.4	94.1	93.8	94.3	95.3

不動産_当社実績

当社主要賃貸不動産物件別年間平均稼働率

	2020	2021	2022	2023	2024
恵比寿ガーデンプレイス (%)	98	92	83	79	90
GINZA PLACE (旧銀座ビル) (%)	99	94	97	93	100
ストラータ銀座 (%)	100	100	100	100	100

恵比寿ガーデンプレイス稼働率推移



当社賃貸等不動産期末時価推移 単位 百万円

	2020	2021	2022	2023	2024
貸借対照表計上額	218,574	203,224	209,628	211,164	209,176
当期末時価	408,141	382,928	385,682	382,970	402,982

～データ編_財務データ～

損益計算書

(単位：百万円)

	2018/12	2019/12	2020/12	2021/12	2022/12	2023/12	2024/12
売上収益	493,908	491,896	434,723	437,159	478,422	518,632	530,783
売上収益（酒税抜き）	370,796	371,100	328,583	331,191	364,240	400,770	412,984
売上原価	335,631	336,682	302,593	303,380	339,180	361,793	365,865
販管費及び一般管理費	143,118	143,490	127,869	125,637	129,931	141,206	142,881
事業利益	15,159	11,723	4,261	8,142	9,312	15,633	22,038
営業利益	11,588	12,208	▲15,938	22,029	10,106	11,820	10,416
E B I T D A	39,751	35,971	27,351	28,639	29,879	36,029	44,047
親会社の所有者に帰属する当期純利益	8,521	4,356	▲16,071	12,331	5,450	8,724	7,714
海外売上収益比率（酒税込み）（％）	15.0	14.5	15.1	17.0	21.4	23.1	24.2
売上収益総利益率（％）	32.0	31.6	30.4	30.6	29.1	30.2	31.1
売上収益販管費率（％）	29.0	29.2	29.4	28.7	27.2	27.2	26.9
売上収益事業利益率（％）	3.1	2.4	1.0	1.9	1.9	3.0	4.2

財政状態計算書

(単位：百万円)

	2018/12	2019/12	2020/12	2021/12	2022/12	2023/12	2024/12
資産合計	639,692	638,722	616,349	594,551	639,118	663,573	664,963
資本合計	164,735	174,524	149,551	163,327	167,201	183,248	197,157
流動資産	153,544	155,765	160,829	167,806	179,431	176,353	193,918
非流動資産	486,148	482,957	455,520	426,745	459,687	487,220	471,045
流動負債	214,591	210,472	216,243	210,535	219,515	191,204	207,007
非流動負債	260,367	253,725	250,555	220,688	252,402	289,121	260,799
ネット金融負債残高	218,358	212,126	221,534	180,730	226,513	205,399	180,972
親会社所有者帰属持分比率（％）	25.2	27.3	24.3	27.3	26.0	27.5	29.5
E B I T D A 有利子負債倍率（倍）	5.5	5.9	8.1	6.3	7.6	5.7	4.1
D/Eレシオ（倍）	1.4	1.2	1.5	1.1	1.4	1.1	0.9

セグメント情報

(単位：百万円)

	2018/12	2019/12	2020/12	2021/12	2022/12	2023/12	2024/12
連結合計 売上収益	493,908	491,896	434,723	437,159	478,422	518,632	530,783
酒類事業	330,009	330,178	285,427	289,678	334,644	376,862	388,162
国内酒類	252,108	254,656	227,943	228,621	245,387	268,302	272,980
海外酒類	50,332	48,257	46,203	53,439	73,950	88,593	94,308
外食	27,569	27,265	11,281	7,617	15,307	19,967	20,874
食品飲料事業	133,384	136,876	125,861	125,453	122,914	119,922	117,950
国内食品飲料	-	-	-	-	98,330	93,484	90,737
海外飲料	-	-	-	-	24,584	26,437	27,213
不動産事業	24,483	24,690	23,262	21,863	20,724	21,702	24,602
その他事業	6,033	152	172	166	140	146	69
連結合計 事業利益	15,159	11,724	4,261	8,142	9,312	15,633	22,038
酒類事業	8,952	8,520	2,368	5,441	7,730	16,016	18,797
国内酒類	7,166	8,003	6,660	7,916	8,471	14,185	16,401
海外酒類	1,473	199	467	1,727	▲261	▲301	385
外食	381	388	▲5,022	▲4,238	▲513	2,105	1,940
食品飲料事業	1,409	▲470	▲2,621	712	1,767	1,634	3,429
国内食品飲料	-	-	-	-	789	2,164	2,248
海外飲料	-	-	-	-	882	▲573	1,183
不動産事業	11,136	10,737	10,853	8,226	6,459	5,784	7,849
その他事業	▲6,338	▲7,064	▲6,339	▲6,237	▲6,644	▲7,801	▲8,037
連結合計 事業利益率(%)	3.1	2.4	1.0	1.9	1.9	3.0	4.2
酒類事業	2.7	2.7	0.8	1.9	2.3	4.2	4.8
国内酒類	2.8	3.3	3.1	3.5	3.5	5.3	6.0
海外酒類	2.9	0.4	0.7	3.2	▲0.4	▲0.3	0.4
外食	1.4	1.4	▲44.5	▲55.6	▲3.3	10.5	9.3
食品飲料事業	1.1	▲0.3	▲2.1	0.6	1.4	1.4	2.9
国内食品飲料	-	-	-	-	0.8	2.3	2.5
海外飲料	-	-	-	-	3.6	▲2.2	4.3
不動産事業	45.5	43.5	46.7	37.6	31.2	26.7	31.9
その他事業	-	-	-	-	-	-	-

※カンントリービューアフーズ社・シルバースプリングスシトラス社（北米飲料事業）
：2018年～2019年12月→食品飲料事業に分類（2019/12売却済み）
※2020年度より、「その他事業」に区分していた物流事業を、「酒類事業」に区分へ変更。
※2021年度より、「日本・アジア酒類事業」に区分していたベトナム事業、欧州事業等の海外事業、
及び「北米酒類事業」について、「海外酒類事業」に区分を変更。
また、同区分変更に伴い、「日本・アジア酒類事業」を「国内酒類事業」に名称変更。
前期比較については、前年数値を変更後セグメント区分に組み替えた数値で比較。
（＝～2019年まで「日本・アジア酒類事業」、「北米酒類事業」
2020年～「国内酒類事業」、「海外酒類事業」）

キャッシュフロー情報

(単位：百万円)

	2018/12	2019/12	2020/12	2021/12	2022/12	2023/12	2024/12
営業活動 C F	30,830	36,069	16,466	30,308	7,814	45,446	36,109
投資活動 C F	▲18,727	▲24,930	▲16,000	20,729	▲46,137	▲16,439	▲5,836
財務活動 C F	▲14,521	▲5,984	4,138	▲53,080	36,465	▲27,140	▲25,372
フリー C F	12,103	11,140	466	51,037	▲38,323	29,007	30,273
現金・同等物期末残高	9,989	15,215	19,734	17,368	15,380	17,204	24,140
設備投資額	23,036	29,912	16,109	21,241	22,326	28,923	36,957
減価償却費	24,591	24,248	23,089	20,496	20,567	20,395	22,009

1株あたり情報

	2018/12	2019/12	2020/12	2021/12	2022/12	2023/12	2024/12
1株当たり当期純利益(円)	109.40	55.92	▲206.31	158.30	69.96	111.99	99.00
1株当たり配当金(円)	42	42	42	42	42	47	52
1株当たり親会社所有者帰属持分(円)	2,073.54	2,234.65	1,922.80	2,086.96	2,134.98	2,340.41	2,515.68
配当性向(%)	38.4	75.1	-	26.5	60.0	42.0	52.5
株価（各年12月末）(円)	2,293	2,579	1,991	2,183	3,280	6,218	8,318

各種指標

	2018/12	2019/12	2020/12	2021/12	2022/12	2023/12	2024/12
ROA：資産合計事業利益率(%)	2.3	1.8	0.7	1.4	1.5	2.4	3.3
ROE：親会社所有者帰属持分当期利益率(%)	5.1	2.6	▲9.9	7.9	3.3	5.0	4.1
総資産回転率：資産合計回転率(回)	0.7	0.8	0.7	0.7	0.7	0.8	0.8

～データ編_非財務データ～

サステナビリティ重点課題 進捗・実績

※ 会社略称表記
SH: サッポロホールディングス、SB: サッポロビール、PS: ポッカサッポロ、
SRE: サッポロ不動産開発、SLN: サッポロライオン、SGF: サッポログループ食品、
SBL: スリーマン、SUSA: サッポロUSA、SVL: サッポロベトナム、PK: ポッカ、YSM: ヤスマ、
FBS: フォーモストブルーシール、SSI: 神州一味噌

※SBT認定済

区分	最注力	重点課題	具体的取り組み	指標	目標設定会社	目標年	目標	実績
環境との調和	●	脱炭素社会の実現	自社拠点・サプライチェーンにおける温室効果ガス排出削減	・温室効果ガス排出削減量	サッポログループ	2030年	・スコープ1,2 温室効果ガス排出量を2022年比で42%削減	【2023年実績】 175.0千t（2022年比92.5%）
					サッポログループ （SB,SBL,PS）		・スコープ3 温室効果ガス排出量を2022年比で25%削減	【2023年実績】 1,104.6千t（2022年比97%）
							・FLAGスコープ1,3 温室効果ガス排出量を2022年比で31%削減	【2023年実績】 64.7千t（2022年比90%）
		循環型社会の実現	・循環型社会に対応した容器包装の実現 ・プラ資源のリデュース・リサイクル	・PETボトル製品 再生材利用率	SB	2030年	・国内製造ワインPET 再生材利用率50%	【2023年実績】 再生材利用率 50.87 %
					PS	2030年	・国内販売PET製品 再生材利用率50%	【2023年実績】 再生材利用率 9.7%
				・広告品類プラスチック削減量	SB	2030年	・化石燃料由来のワンウェイプラスチック製広告品類 国内原則廃止	【2023年実績】 72,649kg
					・食品再生化等実施率	SLN	2024年	・食品再生化等実施率50%
			廃棄物・食品ロス削減	・生産拠点における廃棄物再資源化率	SB,PS		・国内生産拠点における廃棄物再資源化率100%	【2023年度（2023.4～2024.3）実績】 100%
				水資源の保全	・水使用量削減率	SB,PS	2030年	・国内生産拠点における水使用量10%削減（2013年比）
					・水リスク管理	SB,SBL,SUSA,SVL,PS,PK,YSM,SSI		・1回/3年以内による全生産拠点等の水リスクを調査 ・水の効率的使用
					自然共生社会の実現	気候変動に対応した原料育種、自然と共生する拠点・まちづくり	・気候変動対応原料育種の進捗	SB

区分	最注力	重点課題	具体的取り組み	指標	目標設定会社	目標年	目標	実績
社会との共栄	●	地域との共栄	・地域の価値向上 ・自社リソースを活用した地域課題解決	・エリアブランド価値向上に資する持続可能なまちづくりの進捗	SRE		・保有物件価値向上と賑わいの創出 ・物件エリアのステークホルダーとのコミュニティ形成・強化・拡大 ・誰にでも優しい施設づくり	【2024年上期実績】 ・コミュニティ形成に資するイベント実施件数 26件（恵比寿：21件、札幌：5件）
				・「地域創生事業」の進捗	SB		・自治体と連携した持続可能な地域創りとして、食材商談会における地域の食材サプライヤーと企業のマッチング等を実施 ・商談会における自治体、サプライヤー、バイヤー満足度75.0%以上	【2024年上期実績】 10自治体11案件受託 取り組み継続中。
				・日本のレモン生産の環境構築の進捗	PS		◆長期 ・日本のレモン栽培の豊かな土地と恵みを、未来の人々と地域に受け継ぐ ◆短期 ・毎年最低でも農地の最小単位である2,000㎡を増やす ・自社だけでなくパートナーとともに、栽培耕地の拡大 ・後継不在の農地引継ぎ、耕作放棄地の再生等の実施	【2023年度実績】 ・島内農家との契約栽培化を実施 ・その他複数のレモン生産地域へのヒアリング実施 ・1,659㎡の契約農地化
				・食品飲料事業に関する地域における学習プログラム（食育、出前授業、工場見学等）の実施件数	PS,SGF	2030年	・2021年比で10倍（400件規模）	【2023年度実績】 250件（2021年比 約6.8倍）
		健康価値の提供	事業を通じた健康価値の提供	「ポッカレモン」ブランド集計 【年間購入率（％）・年間購入数量（購入者あたりの本数）】	PS	2030年	・レモンが持つ健康機能の発信や用途・シーンの提案を通じて、レモンの総需要を拡大することで人々のWell-Beingに貢献する	【2023年度実績】 ①年間購入率 14.34（％） ②年間購入数量 1.91（購入者あたりの本数）
				・お客様の健康に焦点を当てた商品の展開状況	PK	2030年	・健康に焦点を当てた新商品の開発と市場浸透を進め、売上構成比10%を目指す（POKKA製品に限る）	【2023年実績】 2.7%(sales in Singapore only/シンガポール売上)
				・健康価値提供に資する保有物件の認証取得状況	SRE		・健康価値提供に資する保有物件の認証取得	【2024年上期実績】 2024/5 センタープラザオフィス(B1・2F) CASBEE-ウェルネスオフィス評価認証 最高位「Sランク」取得 ※プラス株式会社との共同取得
		持続可能なサプライチェーン構築	・サプライチェーンにおける人権尊重 ・サプライチェーンにおける環境負荷低減 ・安定調達	・サステナビリティ調達ガイドラインの遵守率	SB,SBL,SUSA,SVL,PS,PK,YSM,FBS,SSI,SLN		・「調達基本方針」及び「サステナビリティ調達ガイドライン」の働きかけ及び浸透策の実施。	【2024年上期実績】 ・各社主要調達先への働きかけに取り組み、同意書の取得に向けて対象サプライヤー順次拡大中。 ・サステナビリティ調達アンケート実施中 現状問題となる事象は確認していない。
					SB,PS		・主要調達先のサステナビリティ調達ガイドライン 遵守率100%	【2023年実績】 遵守率100%
				・人権DDプロセスの進行状況	SB,SBL,SUSA,SVL,PS,PK,YSM,FBS,SSI,SLN		・サプライチェーンの人権尊重を確認できるスキーム ^(※) の確立・実行。（主要原料と高リスク原料から優先実施） ※①各原料に関するサプライチェーンの一覧化 ②アンケート等による日常活動確認 ③必要に応じた状況調査等 ④必要に応じた是正の確認	【2024年上期実績】 ・各社主要原料、高リスク原料について特定 ・サプライチェーン一覧化とサステナビリティ調達アンケート実施中 ②についてSedex評価スキームの確立と運用に向けて進行中
					SB,PS	2025年	・主要原料および高リスク原料について、人権尊重された調達になっていることの確認を実施	【2024年上期実績】 ・2次サプライヤー以降のサプライチェーン可視化：取組み中 ・サステナビリティ調達アンケート実施中
					SRE		・不動産事業におけるバリューチェーン人権尊重に関する実態把握	【2024年上期実績】 グループと連携した取り組みを継続

区分	最注力	重点課題	具体的取り組み	指標	目標設定会社	目標年	目標	実績
人財の活躍	●	多様な人財の活躍	ダイバーシティ・エクイティ＆インクルージョン(DE&I)の推進	・多様な価値観、新しい働き方に合わせた制度・環境の整備状況	SH,SB,PS,SRE,SLN	2026年	・ワークエンゲージメント(※) 54以上 ※ストレスチェック・従業員意識調査による指標<偏差値>	【2024年調査結果】 ワークエンゲージメント 54（目標の54以上を前年に引き続き達成）
					SBL		・DE&I研修を受けた従業員の割合 100%	【2023年実績】 DE&I研修を受けた従業員の割合 94%
							・コンシャス・インクルージョン研修を受講した雇用リーダーの割合：100%	【2023年実績】 リーダーグループ17%と人事部門メンバーに対して実施。
							・DE&I理解度 6.0点（※）	【2023年実績】 5.74点
					SVL		・経営陣の中のローカル社員人数 2名	【2024年実績】 1名
							・組織文化調査 6.00点(※) ※SVL社実施の「組織文化調査」による指標（7点満点中）。	【2023年実績】 5.96点
							・エンゲージメント(※) 80% ※PK社実施の「従業員調査」による指標（ベンチマーク76%）。	【2023年実績】 77%
			・女性活躍推進の進捗状況	SH,SB,PS,SRE,SLN	2026年	・女性取締役比率12%以上、女性管理職比率12%以上	【2024年12月末現在】	
				SH	2030年	・女性取締役比率比率30%以上	女性取締役比率 15.2% （SH 18.2%）	
				SH,SB,PS,SRE,SLN		・女性管理職比率20%以上	女性管理職比率 7.2%	
			成長と生産性向上に向けた人的資本投資	・未来価値創造に向けた挑戦的な風土醸成の進捗度合い	SH,SB,PS,SRE,SLN	2026年	・統合調査「未来価値創造に向けた挑戦」(※)3.0以上 ※ストレスチェック・従業員意識調査によるサッポログループ独自の調査指標 <1.0～4.0で数値化>。	【2024年調査結果】 2.7
				・積極投資による人財育成（経営人財／グローバル中核人財／DX・IT基幹人財）の進捗状況	SH,SB,PS,SRE,SLN	2026年	・経営人財後継者の充足	【2024年上期実績】 事業会社にて経営人財育成会議、全社経営人財連絡会議を実施
							・グローバル中核人財100名	【2023年実績】 ・グローバル中核人財：常時100名以上プールしている
							・DX・IT基幹人財200名	【2023年実績】 ・DX・IT基幹人財：200名育成完了
				・心身の健康の良化による生産性向上の度合い	SH,SB,PS,SRE,SLN	2026年	・プレゼンティーズム損失率(※) 33.4%以下 ※ストレスチェック・従業員意識調査による指標	【2024年調査結果】 ・プレゼンティーズム損失率 33.9%（目標33.4%以下未達）
責任ある飲酒の推進	適正飲酒の啓発	・純アルコール量のラベル表示進捗		SB	2025年	・国産・国内販売の缶入りアルコール飲料、微アルコール飲料容器へ1本当たりの純アルコール量（g）を表示実施率100%	【2024年6月末時点】 ・94%	
		・e-learning等による適正飲酒に関する啓発の社員受講率		SB,SLN		・国内全従業員へのe-learning等による啓発（1回／年以上）100%参加	【2023年実績】 ・9月 eラーニング 全従業員向け 責任ある飲酒の推進 実施 社員受講率 99.4%	
		・飲食店におけるアルコールの誤飲発生件数	SLN		・0件	【2024年上期実績】 ・店舗におけるアルコール誤飲発生件数 0件		
		・飲食店メニュー・POP類へ20歳未満飲酒防止メッセージの表示率	SLN		・100%	【2024年上期実績】 ・飲食店メニュー・POP類へ20歳未満飲酒防止メッセージの表示率 100%		
安全な製品・施設の提供	食品安全	・食品安全保証体制の運用、継続的改善 ・重篤な食品事故の発生件数	SB,SBL,SUSA,SVL,P S,PK,FBS,SSI,SLN		・食品安全保証体制への、お客様をはじめとしたステークホルダー（社内を含む）の声の反映。 ・重篤な食品事故の発生抑制	【2024年上期実績】 ・4件の対外告知案件（SB：ワインの表示間違い 2件 SSI：業務用商品の表示間違い 1件 SLN:EC商品の表示間違い 1件）が発生したものの、重篤な食品事故には至っていない。 <お客様の声を受けての改良> お客様をはじめとしたステークホルダー（社内を含む）の声を反映した事案はない。		
	安全な施設づくり	・施設安全への取組み状況	SRE		・保有物件における適切な非常用電源の確保 ・保有物件における耐震性能の確実な確保 ・有事対応計画に関する定期的な見直しと訓練の遂行	【2024年上期実績】 計画通り実施		

潤いを創造し 豊かさに貢献する



本資料は、投資判断の参考となる情報提供のために作成されたものであり、投資勧誘又はそれに類する行為を目的としたものではありません。
また、本資料に記載された業績予測ならびに将来予測は、資料作成時点での弊社の判断であり、潜在的なリスクや不確実な要素が含まれています。
従って、将来実際に公表される業績等は、本資料に記載されている内容とは大きく異なる結果となる可能性があります。
弊社は、本資料の情報を使用されたことにより生じるいかなる損害についても責任を負うものではありませんので、ご了承ください。